AKAI professional

使用説明書

ご使用になる前に、必ずこの
使用説明書をよくお読み下さい。

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に保管してください。
- 表示と意味は、次のようになっています。

⚠警告	誤った取扱いをすると、死亡や重傷などを負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	誤った取扱いをすると、傷害または家屋・財産などの損害の発生が想定される内容を示しています。

- 本文中の「図記号」の意味は次のとおりです。

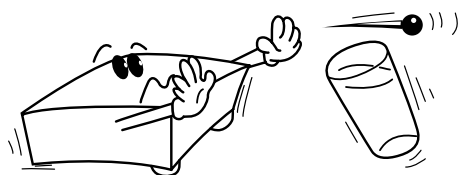
図記号	意味
	「禁止」を表わします。
	「改造・分解の禁止」を表わします。
	「風呂、シャワー室での使用禁止」を表わします。
	「ぬれ手禁止」を表わします。
	「水ぬれ禁止」を表わします。
	電源コードを引っ張らないでください。
	「必ずしてほしい行為」を表わします。
	電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

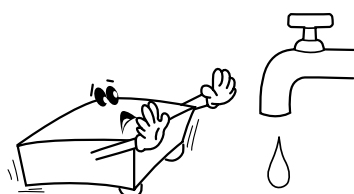
⚠警告

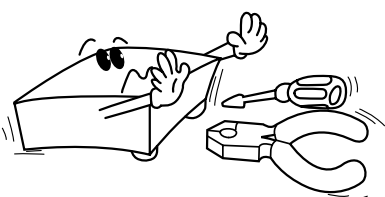
■電源はDC(直流)9ボルトです。

表示された電源電圧(直流9ボルト)以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

■この機器の上に水などの入ったコップや針金、ピンなどの金属片を置かないでください。

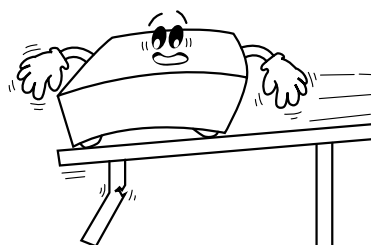
こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

■洗面所や風呂場などの水場では使用しないでください。

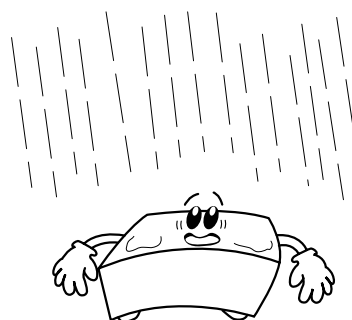
火災・感電の原因となります。

■この機器を改造しないでください。

火災・感電の原因となります。

■ この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは外さないでください。

感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理はお買い上げ販売店、または　プロ・オーディオ・ジャパン 株式会社 サービス係にご依頼ください。

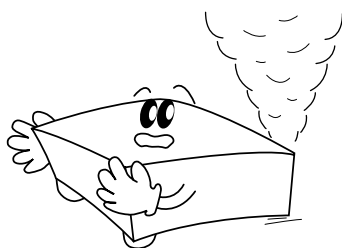
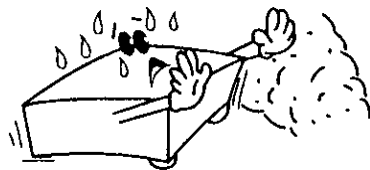
■ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

■この機器に水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

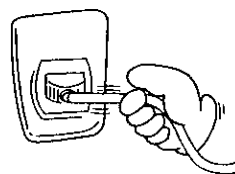
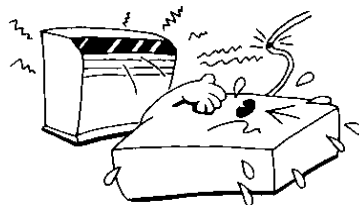
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特に注意してください。

⚠注意

■万一、機器内部に水や異物が入った場合は、ACアダプターをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店、または プロ・オーディオ・ジャパン 株式会社 サービス係にご連絡ください。

そのまま使用すると火災･感電の原因となります。

■万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災･感電の原因となります。すぐにACアダプターをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認してお買い上げ販売店、または　プロ・オーディオ・ジャパン 株式会社 サービス係に修理をご依頼ください。

■湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
火災･感電の原因となることがあります。

■ACアダプターの電源コードが傷んだ場合
電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、お買い上げ販売店、または プロ・オーディオ・ジャパン 株式会社 サービス係に交換 をご依頼ください。
そのまま使用すると火災･感電の原因となります。

■AC アダプターの電源コードの取扱いについて

○電源コードは絶対に引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災･感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

○電源コードを熱器具に近付けないでください。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

○濡れ手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

一般的なご注意

本機の性能を維持し、最良の状態で使用できるよう以下の点にもご注意ください。

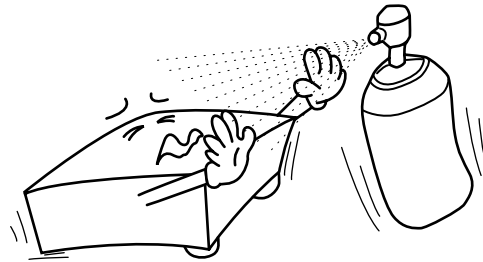
■ACアダプターについて

この製品には、ACアダプターは付属されていません。
この製品には、指定のACアダプター（AC ADAPTOR MP-9（J））をご使用ください。
指定された以外のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

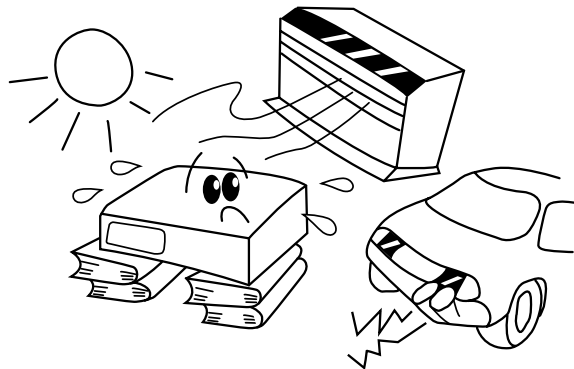
■お手入れについて

汚れやホコリは、柔らかい乾いた布で拭きとってください。特に汚れがひどい場合は、うすめた食器用洗剤か中性洗剤を柔らかい布に少量含ませて拭きとってください。シンナーやベンジンなどの揮発性の薬品は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

■スプレー式の殺虫剤にご注意

本機に殺虫剤がかかると、パネル表面が傷んだり変色することがあります。スプレーをまく前にカバーをするなど注意が必要です。

■設置場所について

本機を使用する場合は、以下の場所での使用はおすすめできません。

1. 暖房器具の放射熱や直射日光のあたる所
2. 風通しの悪い所
3. 水平でない所
4. 極端に寒い所、あるいは暑い所
5. 自動車、船内などの振動の影響を受けやすい所

・接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ず全ての機器の電源を切って下さい。
・機器の電源を切ってからもう一度電源を入れなおすときは、機器の動作を確実にするため、数秒の間をおいてから行ってください。

■故障が発生したら

ご使用の製品が故障したり異常を感じた場合は、すみやかに電池または、ACアダプターをコンセントから抜き、接続コードなどを取り外してください。

そして、

・モデル名:　EWI4000s
・故障や異常の具体的な症状
・ご自宅の住所・電話番号

などをお買い上げの販売店、
またはプロ・オーディオ・ジャパン株式会社サービス係までご連絡ください。

■保証について

この製品に添付されている「保証書」に、お買い上げの年月日・販売店などの所定事項が記入されているのをご確認ください。故障に際して「保証書」の提示がございませんと保証期間内でも有料修理となりますので、保証書記載内容をご確認の上、この取扱説明書と一緒に大切に保管してください。

■保証用性能部品について

「保証用性能部品」とは、その製品の性能を維持するために必要な部品をいいます。この製品における「保証用性能部品」の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。

■お問い合わせ

プロ・オーディオ・ジャパン 株式会社

〒220-0022　神奈川県 横浜市西区 花咲町7-150
ウェインズ＆イッセイ横浜ビル 5階

サービスのお問い合わせ:　TEL 045 - 326 - 2046 (10:00～18:00)
商品のお問い合わせ:　TEL 045 - 290 - 6390 (10:00～18:00)

目次

第2章　基本操作　10

第1章　はじめに

　このたびは、AKAI professional ELECTRIC WIND INSTRUMENT EWI4000sをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。この使用説明書には、EWI4000ｓの「使用方法」「注意事項」などが説明されています。EWI4000sをご使用になる前に、この使用説明書をよくお読みいただき、正しい取扱方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用下さいますようお願い申し上げます。また、使用説明書は必要なときにすぐ取り出せるよう、わかりやすい所に保管することをおすすめします。

EWI4000sの特徴

・ サキソフォンやクラリネット等の木管楽器とほぼ同様な操作で演奏することができます。

・ マウスピースをくわえる強さや吹く息の強さに応じて反応する特殊センサーにより、音程、音質、音量の微妙なコントロールが可能。プレイヤーの表現力を余すことなく伝えます。

・ ピッチ･ベンドやグライド効果を簡単に得られるタッチ･プレートや８オクターブの音域にわたってシフト可能なオクターブ･ローラーを装備しています。

・ タッチ･センス･キーにより、メカニカルなキーでは実現できないような素早い演奏が可能です。

・ 音源だけでなくリバーブやディレイなどのエフェクトを内蔵しているので、外部に音源やエフェクターを用意しなくてもケーブルをつなぐだけですぐ演奏を始めることができます。

・ 電池（単三×4本）で動作しますので、市販のワイヤレスシステムと組み合わせて使用することで、ケーブル無しで演奏することができます。

・ 音色変更や音量調整、エフェクトレベルの調整まで本体のみで行えます。

・ MIDI OUT端子に外部MIDI音源モジュールを接続することで、MIDIコントローラーとして使用することができます。

・ 音色エディットソフト「Uniquest EWI4000s」（本製品付属CD-ROMに収録）を使って本体のプリセット音色を好みの音色にエディットすることができます。

・ ヘッドホン端子を装備しているので、自宅で練習するときでも直接ヘッドホンをつなぐだけで始められます。

各部の名称/機能

■本体上部

マウス・ピース

吹き口です。また、マウスピースの中にはビブラート・センサーが入っていて、マウスピースを噛むことでビブラート効果を得ることが出来ます。ただし強く噛みしめないで下さい。

ホールド・ボタン

初期設定では機能が割り当てられていませんが、セットアップ・モードでホールド機能を割り当てると、レガートで演奏したときに最初のノートを維持したまま別のノートを重ねて演奏することが出来ます。また、プログラム・アップ機能を割り当てると、プログラム・キーに触れなくてもプログラムを変更することが出来ます。各種設定を行うときは(セットアップ・モード時)データ「+」ボタンとして働きます。

ノート・キー(タッチ・センス)

音程を決めるためのキーです。下の 3 つのキーは上部のネジを緩めて向きを調整することが出来ます。

オクターブ・ボタン

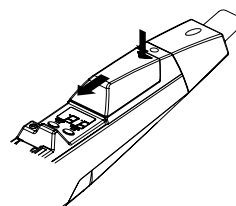
初期設定では機能が割り当てられていませんが、セットアップ・モードでオクターブ機能を割り当てると、演奏しているノートに 1 オクターブ下の音が重なって鳴ります。また、プログラム・ダウン機能を割り当てると、プログラム・キーに触れなくてもプログラムを変更することが出来ます。各種設定を行うときは(セットアップ・モード時)データ「-」ボタンとして働きます。

■本体側面／裏側

A. プログラムデータ表示部
プログラム／データ表示、センサー感度調整、トランスポーズボタン
→ 4ページ
B. グライド・プレート部
グライド・プレート部分について
→ 4ページ
C. ベンド・プレート部
ベンド・アップ／ダウンプレート、ベンド・プレート位置調整ネジ
→ 5ページ
D. 電源／MIDI端子／オーディオ出力部
電源部、MIDI IN/OUT端子、LINE OUT端子、Headphone出力端子
→ 6ページ
E. ケーブル・クラッチ／電池ケース部
→ 6ページ
AKAI professional
EWI 4000s
ELECTRIC WIND INSTRUMENT
SETUP
TRANS.
FX
LEVEL
POWER
MIDI IN
MIDI OUT
PHONES
LINE OUT
DC IN

A. プログラムデータ表示部

1. センサー感度調整

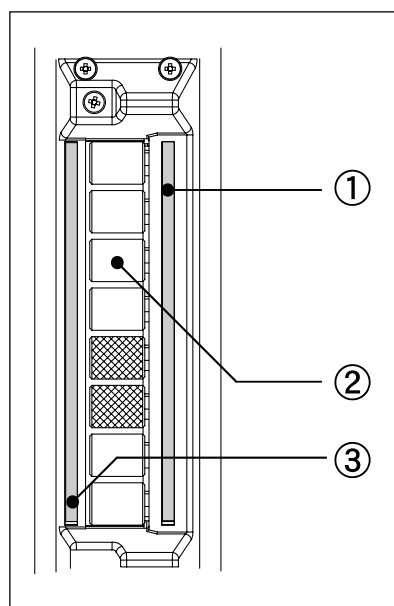
ふたを開けると各センサーの感度を調整するためのツマミが並んでいます。調整方法については14ページをお読みください。

2. プログラム／データ表示

状況に応じてプログラムナンバーや設定値を表示します。

3. TRANS（トランスポーズ）ボタン

トランスポーズ機能のオンオフを切り替えます。オンの時はLED が点灯します。ボタンを押している間、トランスポーズの値が表示され、この時HOLD,OCT ボタンで値を変更することができます。

4. SETUP（セットアップ）ボタン

各種設定を行うセットアップ･モードに入るためのボタン。セットアップ･モードのときLED が点灯します。

B. グライド･プレート部

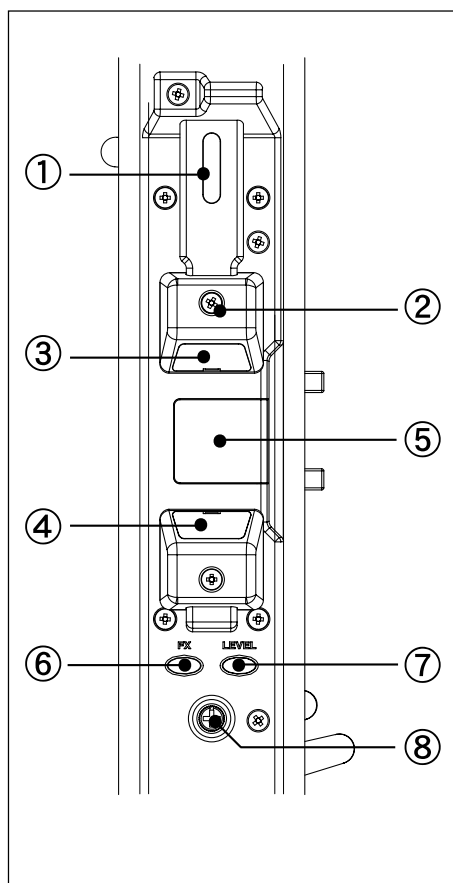
1. グライド･プレート（タッチ･センス）

グライド･プレートに触れながら演奏すると音程の変化が滑らかになります。

2. オクターブ･ローラー（タッチ･センス）

演奏するオクターブ（音程）を決めるためのセンサーです。演奏中は常時触れている必要があります。

3. 左手用アース･プレート（タッチ･センス）

タッチセンサーを正しく動作させるためには右手用、左手用どちらかのアース･プレートに常時触れている必要があります。

C. ベンド・プレート部

1. スリング・マウント

ここにスリンガーを装着します。

2. プログラム・キー(タッチ・センス)

ベンド・アップ・プレート上部にあるネジがタッチセンス付きのキーになっています。プログラム(音色)を変更する場合に使用します。ノート・キーに触れない状態でこのキーに触れると、現在のプログラムナンバーが表示されます。この時HOLD,OCT キーでプログラムを変更できます。

3. ベンド・アップ・プレート(タッチ・センス)

プレートに触れると音程が上がります。ねじを緩めて位置を調整することができます。

4. ベンド・ダウン・プレート(タッチ・センス)

プレートに触れると音程が下がります。ねじを緩めて位置を調整することができます。

5. 右手用アース・プレート(タッチ・センス)

タッチセンサーを正しく動作させるためには右手用、左手用どちらかのアース・プレートに常時触れている必要があります。

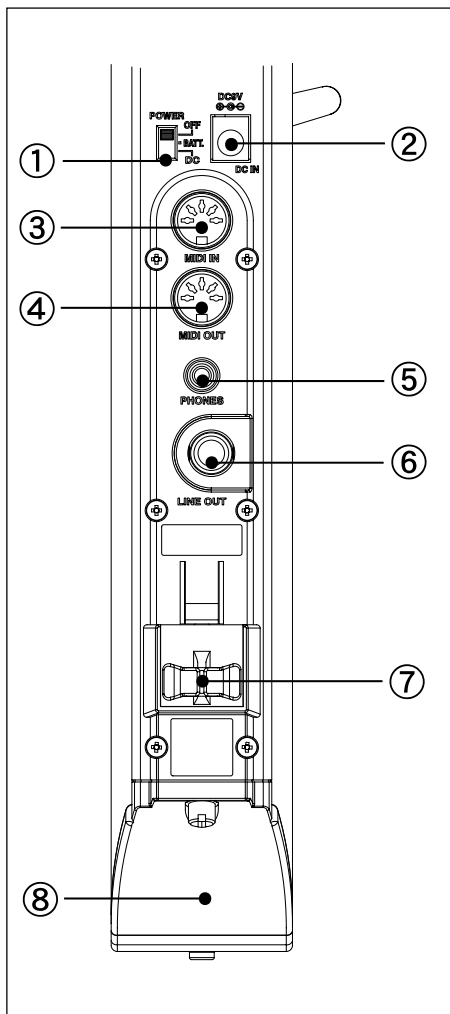
6. FX (エフェクト)ボタン

ボタンを押している間、リバーブのマスターレベルの設定値が表示され、この時HOLD,OCT ボタンで値を変更することができます。各プログラムのエフェクトレベルを調整する場合はボタンを押しながらSETUP ボタンを押します。

7. LEVEL(レベル)ボタン

ボタンを押すと現在のマスターレベルの設定値が表示され、この時HOLD,OCT ボタンで値を変更することができます。各プログラムレベルを調整する場合はボタンを押しながらSETUP ボタンを押します。

8. タッチセンス感度調整

タッチ・キーの感度調整用です。工場出荷時に調整済みですので通常は自分で調整する必要はありません。

D. 電源･MIDI／オーディオ出力部

1. 電源スイッチ

電池で使用するときは”BTT.”を、別売りのAC アダプター「MP-9」を使用するときは、”DC”を選択してください。EWI4000sを使用しないときは”OFF”を選択してください。

2. DC IN 端子

別売りのAC アダプター「MP-9」を接続します。電池で使用する場合は必要ありません。

3. MIDI IN 端子

音色編集ソフトを使ってPC で音色をエディットするときにPC のMIDI OUT に接続します。

4. MIDI OUT 端子

音色編集ソフトを使ってPC で音色をエディットするときにPC のMIDI IN に接続します。EWI4000s をMIDI コントローラーとして使用するときは、音源モジュールのMIDI IN 端子と接続します。

5. PHONES 端子（ステレオ･ミニ･ジャック）

ヘッドホンを接続します。

6. LINE OUT 端子

ミキサーやアンプの入力端子と接続します。

E. ケーブル･クラッチ電池ケース部

7. ケーブル･クラッチ

ここにケーブルを固定することでケーブルを抜けにくくすることができます。

8. 電池ケース

電池（単三×4 ）を収納します。ふたを固定しているねじは硬貨などを使って緩めることができます。

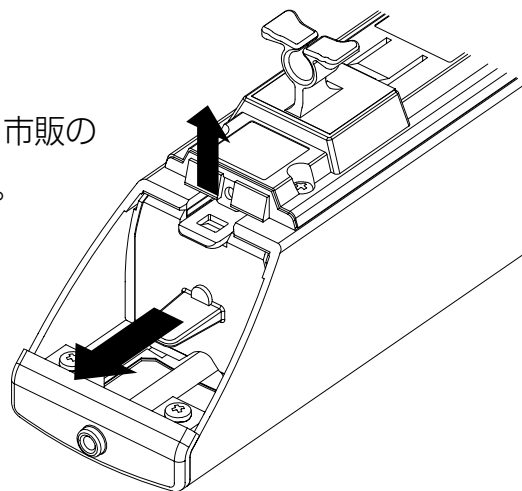
ご使用の前に

EWI4000sを操作するうえで、次の点にご注意ください。

- マウス・ピースにはビブラート・センサーが内蔵されていますので、演奏中にマウスピースを圧迫する場合、必要以上の力でかみしめないでください。
- マウス・ピースを必要以上に変形させると故障の原因になります。使用後や持ち運びの際には、付属のマウス・ピース・キャップをご使用下さい。
- 常に＜アース・プレート＞と＜オクターブ・シフト・ローラー＞にタッチしながらプレイ、および音作りをしてください。EWI4000sの各“タッチセンサー”は、演奏者のボディ・アースによって動作します。
- マウス・ピースは清潔に保ってください。EWI4000sのマウス・ピースは、演奏者の口腔内に直接触れますので、演奏中および演奏前後の衛生管理には十分に気を配ってください。表面を消毒用アルコールで清浄してください。

■電池の入れ方

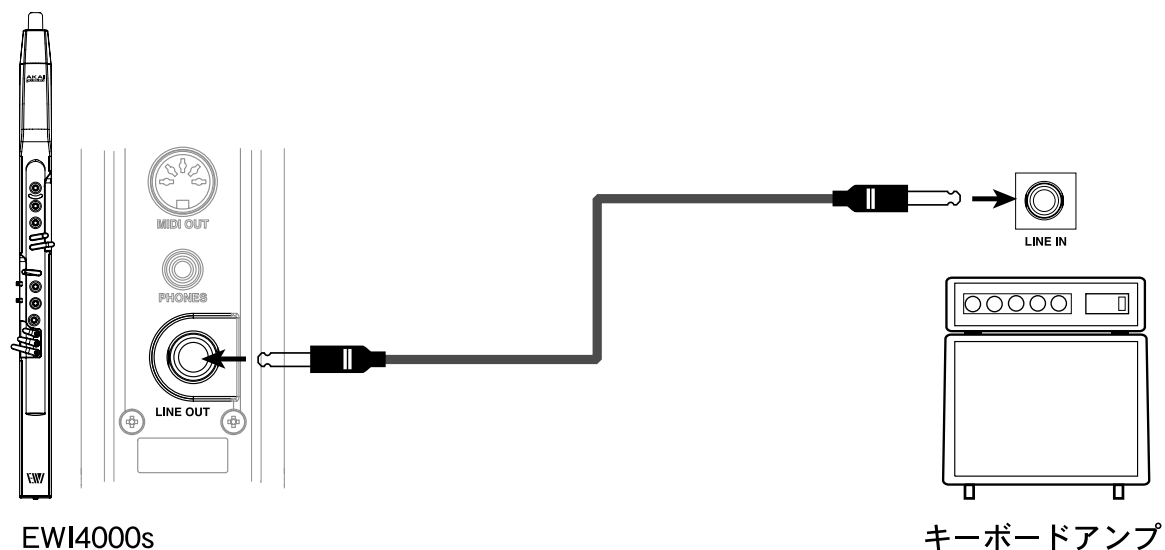
電池は単三アルカリ電池を使用してください。市販の単三型充電式電池を使用することもできます。
電池で使用するときは電源スイッチ(POWER)を「BATT.」の位置にセットしてください。
使用しないときは電池の消耗を防ぐために電源スイッチを「OFF」にセットしてください。
使用中に電池がなくなってきた場合、プログラム／データ表示部分のドットLEDが点滅します。点滅が始まったら早急に電池を交換してください。

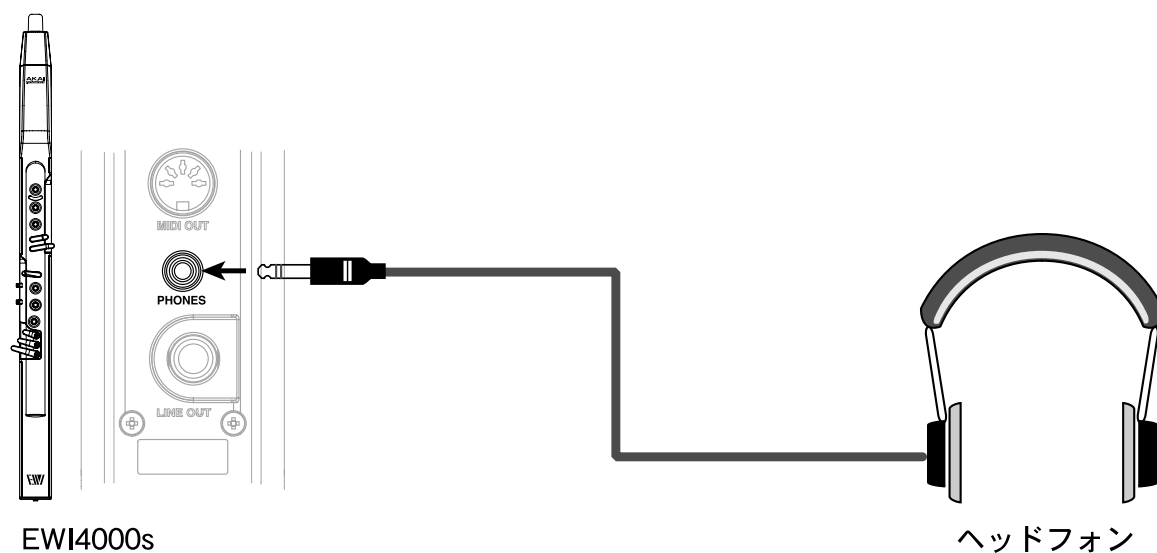
電池を装着する際は電池の向きに注意してください。長時間使用しない場合は本体から電池を取り除いて保管してください。種類の違う電池を混合して使用しないでください。

■ACアダプター

別売りのACアダプターMP-9を使用することで、家庭用コンセントから電源を供給することができます。MP-9をEWI4000sのDC IN端子に接続してください。
MP-9を使用するときは電源スイッチを「DC」の位置にセットしてください。

接続のしかた

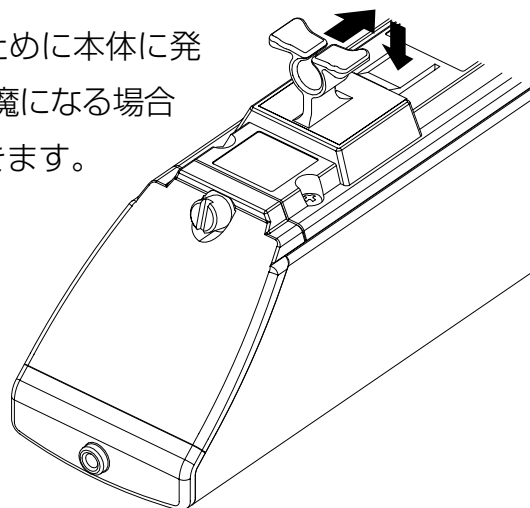
■ラインアウトをミキサーやキーボードアンプにつなぐ

EWI4000sのLINE OUT端子とキーボードアンプのLINE INやラインミキサーのチャンネル入力を接続します。

■ヘッドホンをヘッドホンアウトにつなぐ

ヘッドフォンのプラグをEWI4000sのPHONES端子(ステレオミニジャック)に接続します。

■市販のワイヤレスシステムにつなぐ

EWI4000sは音源そのものを本体に内蔵していますので、市販のギター用ワイヤレスシステムなどを使って演奏することができます。

■ケーブル・クラッチの取り外し

ギター用のワイヤレスシステムを使用するために本体に発信器を取り付ける際、ケーブル・クラッチが邪魔になる場合は、ケーブル・クラッチを取り外すことができます。

第2章　基本操作

EWI4000sについて

EWI4000sは木管楽器タイプのコントローラーに音源とエフェクトを内蔵していて、本体だけでアコースティックな楽器に劣らぬ豊かな表現力と、電子楽器ならではの特性（たとえば広い音域やバラエティーに富んだ音色etc.）を兼ね備えています。従来の製品では演奏するために外部の音源やエフェクターを用意する必要がありましたが、EWI4000sには音源もエフェクターも内蔵されていますので、EWI4000sをミキサーに接続するだけですぐに演奏を始めることができます。ただし、細かなニュアンスやダイナミックな演奏を正確に表現するためには、EWI4000sの機能を理解した上で演奏する方が、よりいっそう表現力豊かな演奏が可能となります。また、人によっては息を吹き込む強さにも差がありますが、センサーの感度を調整することで各自にあわせた設定を行うことも重要です。

EWI4000sの電源を入れて演奏できる状態のことを「プレイ・モード」と呼び、通常はこのプレイ・モードで使用することになります。センサー感度の調整やMIDIに関する設定など、各種設定をするときは、SETUPボタンを押して「セットアップ・モード」で行います。基本的にはこの二つのモードを使い分けることになりますが、感度調整や各種設定を一度行ってしまえば、通常はプレイ・モードだけで使用することができるように設計されています。まずは「基本的な奏法」をお読みいただいたうえで、実際の演奏にトライしてみてください。

基本的な奏法

最初にEWI4000sの基本的な奏法を理解した上で実際の演奏に入りましょう。

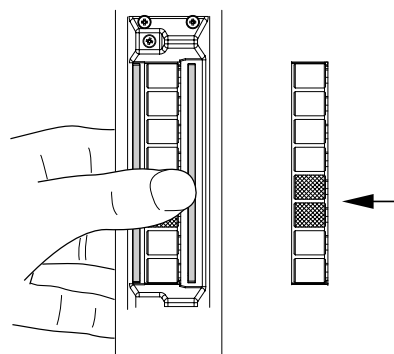
持ち方

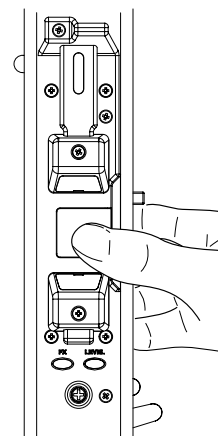
EWIはタッチセンス方式のキーを採用しているので、速いパッセージを演奏をするには大変有利ですが、通常の管楽器のようなキーアクションが無いため、軽く指でキーに触れただけでそのキーの音が出ます。
EWIを持つ時は指を自由に動かせるように、必ずスリンガーを使用してください。

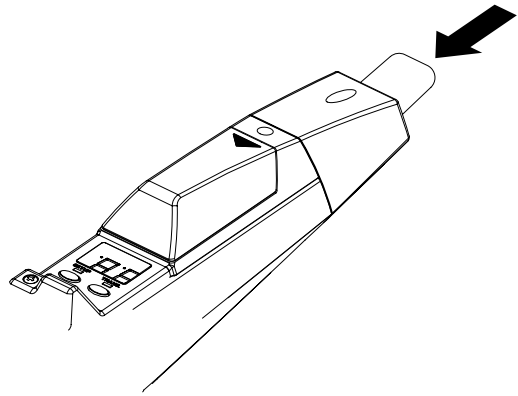
ノート・キーの操作について

基本的にはサキソフォンやクラリネットなど、木管楽器と同様の運指で演奏することができます。詳しい運指については48ページ〜50ページの運指表 を参考にしてください。
また、EWI4000sではアコースティック楽器では実現できないような様々な替指を使うことができます。運指表を参考に自分流の替指を開発するのも面白いかもしれません。

■オクターブ・ローラー

ローラーとローラーの間に左手親指を置き、二つのローラーに常に触れている状態で使用します。基本となるのはローラーにギザギザのついているところです。

■アース・プレート

アース・プレートは右手用と左手用で 2 カ所あります。常にどちらか一方に触っている必要があります。

■マウスピース

軽く噛むようにくわえ、口の両端から息を抜くように吹いてください。EWI4000sではブレス･センサーに加わる圧力を検知して音の強弱や音色の変化を表現します。そのため、大量の息がコントローラーの管の中を抜けないようになっているのでこのような独特な吹き方をします。また、ロングトーンの場合は口の両端から抜く息の量を減らしてやることで、少ない息で音をのばし続けることができます。このように、フレーズによって吹き方を替えたりすることで、表現力豊かな演奏ができるようになります。慣れないうちは難しく感じるかもしれませんが、練習を重ねるうちに自然とコントロールできるようになります。

■ビブラート

マウスピースの中にはビブラート･センサーが入っていて、マウスピースを噛むことでビブラート（音を揺らす）効果を得ることができます。ビブラートの効果は軽く噛むだけで得られますので力を入れて噛む必要はありません。強い力で噛みすぎるとマウスピースやセンサーをいためてしまいますので注意してください。

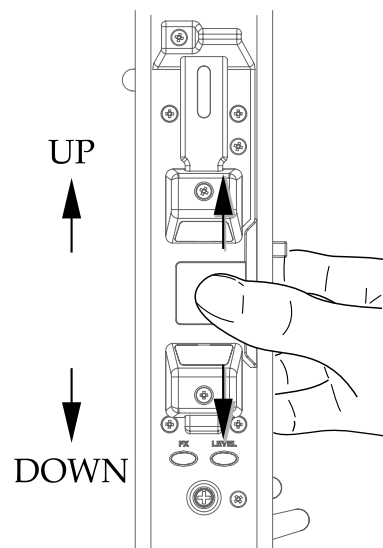
■タンギング

口の両端から息を抜きながら、口で「トゥットゥットゥッ」とか「トゥクトゥク」という感じで吹くことによって、いわゆるタンギングを行うことができます。

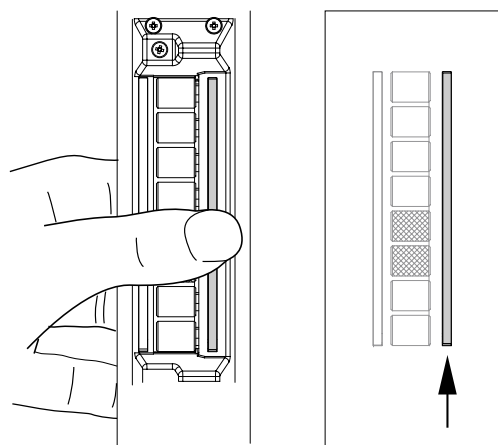
＊ センサー感度調整のBR[ブレス]のS（センス）の位置にで多少ニュアンスが変わってきますので、いろいろ試してください。

■ベンド

ベンドアップ/ダウン・プレートに右手親指を触れる（アース・プレートにも同時に触れておく）ことによりピッチ・ベンド効果（音程のアップ/ダウン）を得ることができます。アース・プレートを触っている右手親指を上下にスライドさせるように動かします。

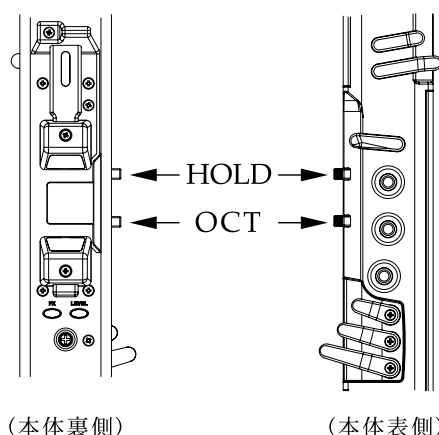
> ＊ *ベンドに慣れるまでは、ベンドアップ/ダウン・プレートに無意識に触れてしまうことがありますので注意してください。ベンドセンサーはねじを緩めて、位置を調整することができます。*

■グライド

左手親指をグライド・プレートに触れながらオクターブ・ローラーで音程を変えると、グライド効果（音程を滑らかに上げ下げすることで、ポルタメント効果とも呼ばれます）を得ることができます。

> ＊ *グライドに慣れるまでは、グライド・プレートに無意識に触れてしまうことがありますので注意してください。*

■HOLDボタンとOCTボタン

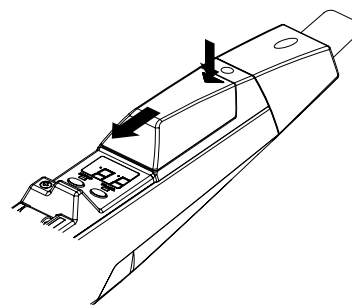
これらの二つのボタンは、初期設定では機能が割り当てられていませんが、セットアップ・モードでそれぞれホールド機能（30ページ参照）とProgram Up機能（23ページ参照）、オクターブ機能（29ページ参照）とProgram Down機能（24ページ参照）を割り当てることが出来ます。

（本体裏側）　（本体表側）

各種設定を行うときは（セットアップ・モード時）データ「+」/「-」ボタンとして働きます。

■各センサーの感度調整および設定

EWI4000sではプレイヤーの息の強弱や微妙なピッチ・ベンドなどの演奏情報を余すことなく音として表現するために、各センサーの感度調整や設定が必要です。

> ＊ *工場出荷時に各センサーの調整はされていますが、演奏前に再度各センサーの感度調整および設定を行ってください。各センサーが正しく調整されていないと、演奏に支障を起こす場合があります。*

感度調整のためのツマミはプラグラム/データ表示部分の上にあるカバーを開けたところにあります。次の図の要領でカバーを取り外してください。

各ツマミの機能は以下のようになります。

グライドセンサー調整
ツマミ(A)

ピッチベンドセンサー調整
ツマミ(A)

ビブラート・ディプス調整
ツマミ(A)

ブレスセンサー調整
ツマミ(A)

グライドTime設定
ツマミ(T)

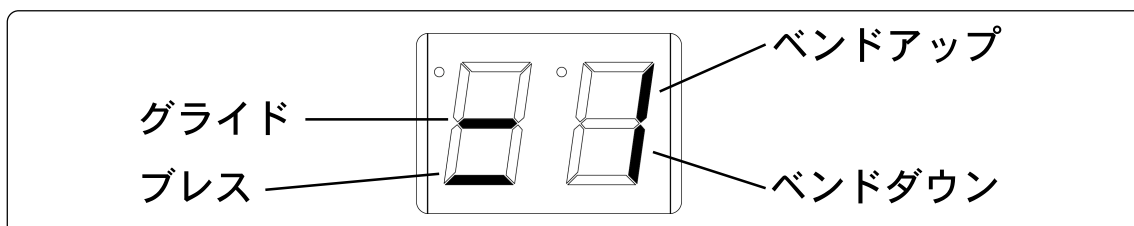
ピッチベンド・ワイズ設定
ツマミ(W)

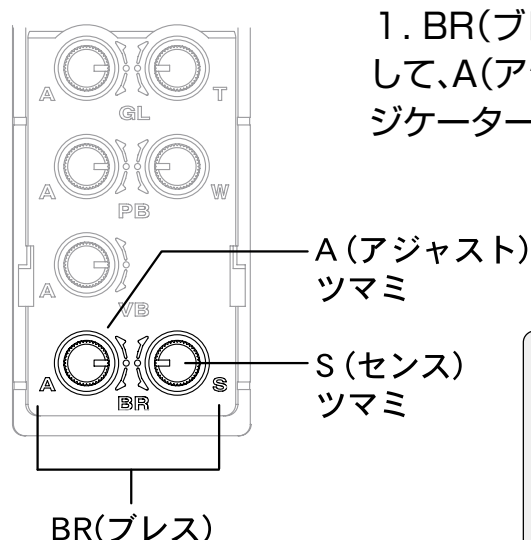
ブレス・センス
ツマミ(S)

各センサーの感度調整はセットアップ・モードで行います。

1. SETUPボタンを押してください。

2. SETUP LEDが点灯してセットアップ・モードになります。

セットアップモードではプログラム・データ表示部が各センサーの状態を表すインジケーターとなります。

■ブレス・センサーの調整

ブレス・センサーは息の強さで音量や音色をコントロールして表現豊かな演奏を行うための最も重要なセンサーです。

1. BR(ブレス)のS(センス)ツマミを真ん中にセットして、A(アジャスト)ツマミを右に回すと、Breathインジケーターが点灯して、左に回すと消灯するはずです。

※ Breathインジケーターが点灯しているとき、EWI4000sから音が出ます。ブレスの感度調整を行う際は、接続している機器の音量設定にも注意してください。

2. インジケーターが点灯している状態から徐々にAツマミを左に回して、インジケーターが消える位置に設定してください。（この時同時に音も出なくなります。）

3. EWI4000sを正しい姿勢で持ち、マウスピースに息を吹き込んでみましょう。

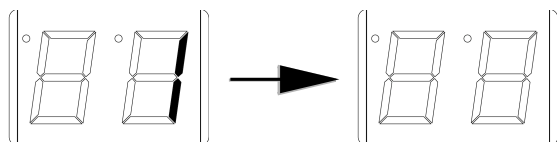
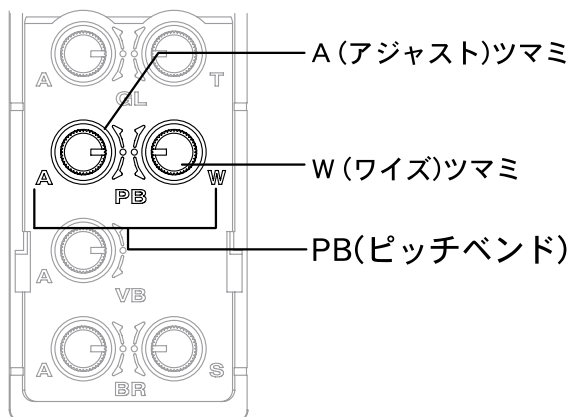
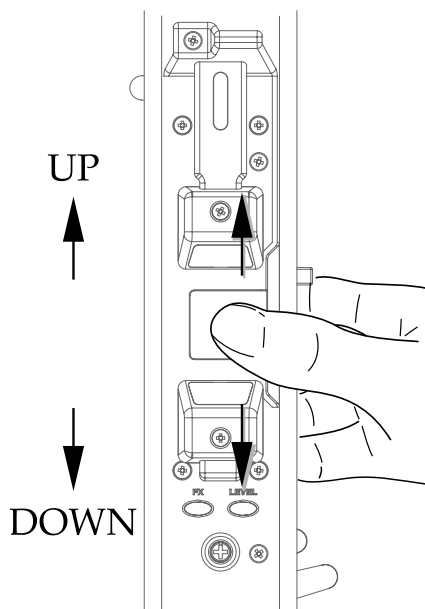
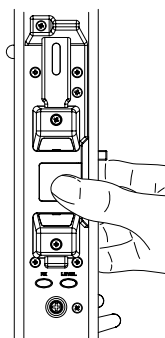
息を吹き込んだときに音が出て、息を止めたときに音も止まれば正常です。

4. 続いて息の強弱を変えながら吹いてみて、音に強弱の違いがあるかを確認してください。

もし、思っているより強弱の変化が少ないようならSツマミを左に回して、強弱の違いが出るポイントを見つけてください。強弱の違いがつくが強く吹かないと音が出ないようときはSツマミを右に回して、楽に吹けるポイントを見つけてください。Sツマミを右に回すと少ない息でも大きな音が出るようになりますが、強弱の変化はつきにくくなります。またSツマミを左に回すと強弱の変化はつきやすくなりますが、息をたくさん入れないと大きな音が出なくなります。息の量は人によって違うので、Sツマミを調整して自分にあったポジションを見つけてください。また、EWI流の吹き方(口の両端から息を抜きながら吹く)をマスターして息の量の調節がうまくできるようになった時は、再度調整してみるのもいいかもしれません。

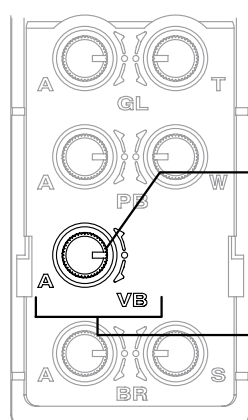
＊ Sツマミを調整した時は再度Aツマミを調整してください。

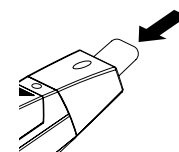
■ベンド･センサーの調整

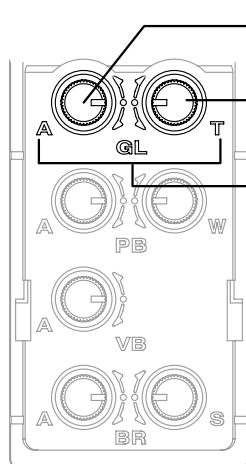
音程のアップ／ダウンによって演奏に表情をつけることができるベンド･センサーを調整します。

1. PB（ピッチ･ベンド） のW（ワイズ）ツマミを右一杯に回してください。
2. ベンド･アップ／ダウン･プレートを触らない状態でアース･プレートだけを触るようにしたとき、Bend upインジケーターとBend downインジケーターの両方が消灯するように、PB（ピッチ･ベンド）のA（アジャスト）ツマミを調整してください。
3. 両方のインジケーターが消えるポイントを見つけたら、EWI4000sを正しい姿勢で持ち演奏してみましょう。

右手の親指をずらすような感じでベンド･アップ･プレートに触ると音程が上がり、ベンド･ダウン･プレートを触ると音程が下がれば正常です。ベンド･プレートを触る量や触り方で音程の変わり方が変わりますのでいろいろ試して演奏しやすい方法を見つけてください。音程が大きく変わりすぎるときはWツマミを左に回してください。

＊ *Wツマミを調整した時は、再度Aツマミを調整してください。*

■ビブラート・センサーの調整

ビブラートセンサーはマウスピースの中に入っていてマウスピースを噛む力を検出して音にビブラート効果を与えます。

１．VB（ビブラート）のA（アジャスト）ツマミを真ん中ぐらいに設定して、EWI4000sを演奏して音を延ばしている最中にマウスピースを軽く噛んでみてください。

噛んだときに音に変化があるはずです。もし音の変化が少ないときはAツマミを右に回して、もう一度試してみてください。マウスピースを連続的に噛む（噛み続けるのではなく何度も噛む）ことでビブラートがかかります。

■グライド・センサーの調整

グライド・センサーはオクターブ・ローラーの右側にあるセンサーで、触れることで音程の変化を滑らかにする効果があります。

１．GL（グライド）のT（タイム）ツマミを真ん中ぐらいにセットして、A（アジャスト）ツマミを右に回すと、Glideインジケーターが点灯して、左に回すと消灯するはずです。

２．インジケーターが点灯している状態から徐々にAツマミを左に回して、インジケーターが消える位置に設定してください。

３．左手親指でオクターブ・ローラーとグライド・センサーの両方を触りながら演奏してみてください。

ノート・キーで音程を変えると音が滑らかに変わるはずです。効果を確かめるために、オクターブ・ローラーを使って、音程を1オクターブ一気に変えてみてください。音程が瞬時に変わらずにゆっくり時間をかけて音程が変わります。音程の変わる時間をもっと長くしたい場合はT（タイム）ツマミを右に回してください。効果が大きすぎて、音程が変わるのに時間がかかりすぎるときはTツマミを左に回してください。

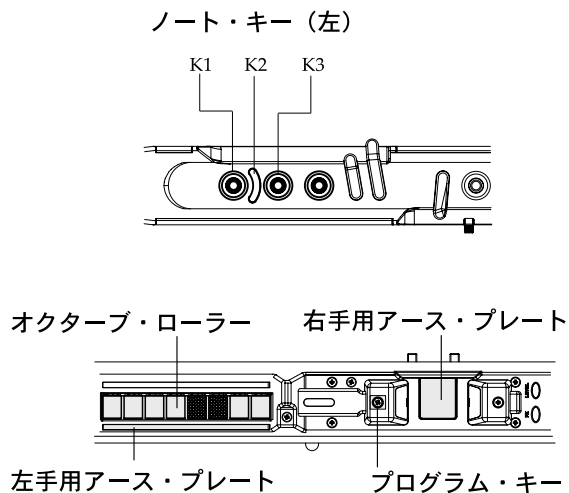
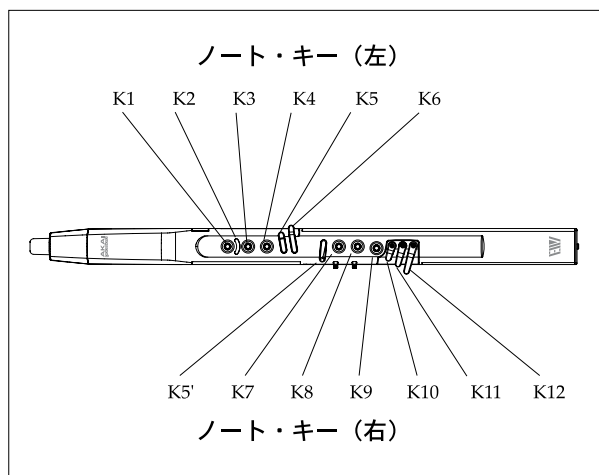
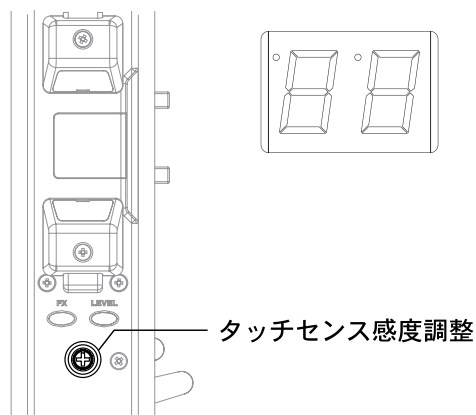
音程を変化させる方法はタイムとレートの２種類があります。詳しくは、31ページ「グライド機能（応用）」を参照下さい。

＊ Tツマミを調整した時は、再度Aツマミを調整してください。

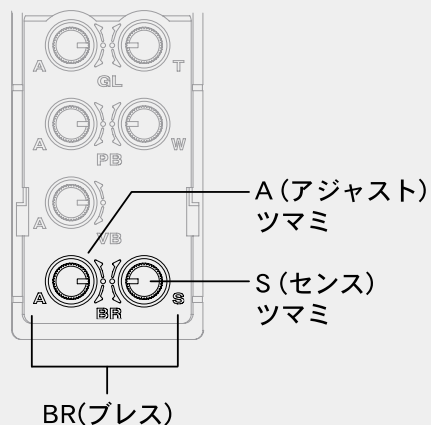
■タッチセンス感度調整

EWI4000sはメカニカルなスイッチではなくタッチ･キーを採用しています。通常、タッチ･キーの感度は工場出荷時に調整されていますので、自分で設定する必要はありません。ただ、温度や湿度といった環境の変化や、部屋の床の状態(静電気)などの理由により、キーが正しく反応しない場合があります。このようなときはタッチセンス感度調整を行ってください。

1. プレイ･モードで左手でノートキー(K1, K2, K3)とアース･プレートとオクターブ･ローラーを押さえてください。

> *※この時プログラム･キーには触れないでください。*

2 . この状態ですでに、プログラム／データ表示部分に何か数字が表示されている場合は、タッチセンス感度調整を右に回して、表示が消えるポイントを見つけてください。そして、そこから更に少し右に回したところに設定してください。

プログラム／データ表示部分に何も表示されていない場合は、いったんタッチセンス感度調整を左に回して数字を表示させてから、右に回して表示が消えるポイントを見つけて、そこから更に少し右に回したところに設定してください。

3.　最後に左右の手でキーをなるべく多く押さえて、プログラム／データ表示部に何も表示されないことを確認ください。

※ *感度調整を面倒な作業のように思われるかもしれませんが、自分に合わせて感度を調整してやることで、演奏の表現力が増して、より細かなニュアンスのある演奏が行えるようになります。また、一度最初に調整してしまえば毎回調整する必要はありません。ただし、各センサーは大変デリケートにできているので、温度などの環境の変化で感度が変わってしまう場合があります、そのような場合は再度感度を調整してください。また、EWIを始めてすぐの頃は、ブレスの感度を軽くして（Sツマミを右に）吹く方が吹きやすかったりしますが、上達してブレスの強弱を上手にコントロールできるようになると、ブレスの感度を重く（Sツマミを左に）した方が、より表現力のある演奏ができるようになります。*

以上で調整は終わりです。
後は実際に演奏していろいろな機能を試してみてください。EWIはアコースティック楽器と同様に、練習することで上達していく楽器です。新しい楽器を始めるときはその演奏方法に最初は戸惑うかもしれませんが、練習を重ねることでEWIが無限の可能性を秘めた楽器であることに気づいていただけると思います。EWIのプレイに決まりはありません。EWIをプレイしてあなたなりのEWIスタイルを発見してください。

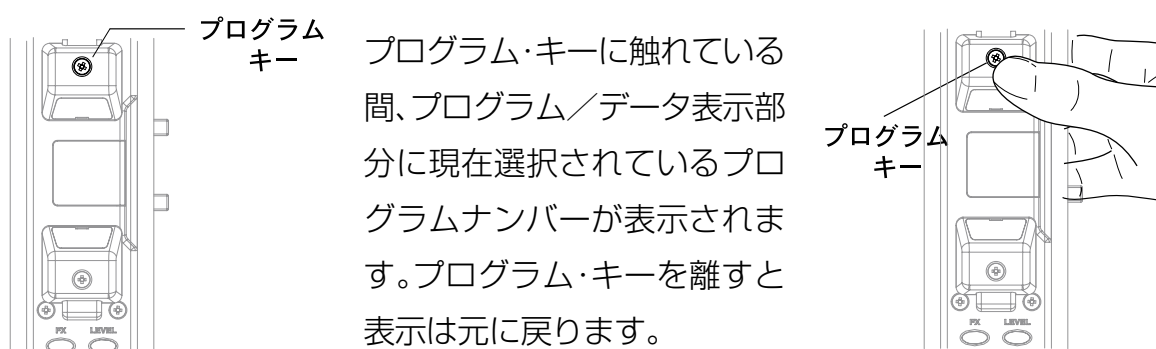
第3章 EWIを使いこなす

音色(プログラム)の選択

■音色(プログラム)の選択

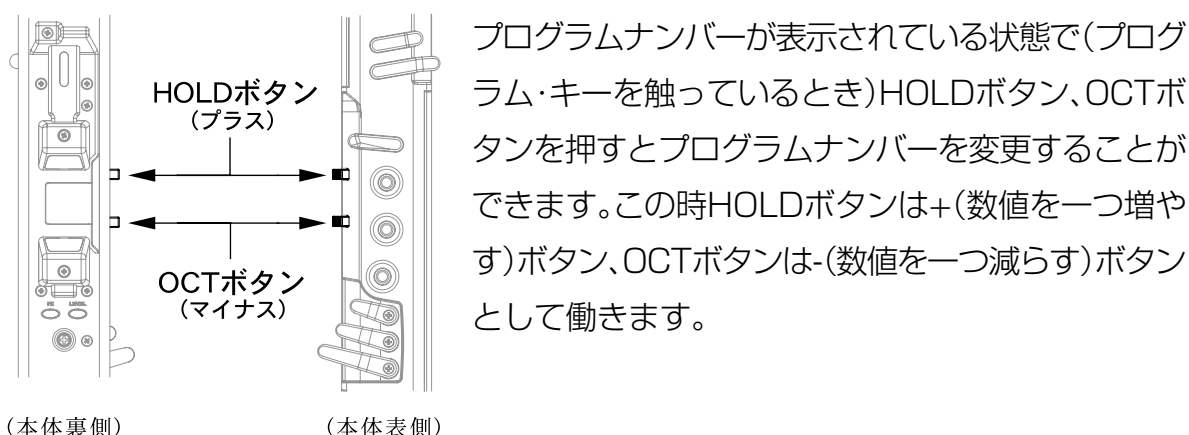
EWI4000sには100音色がプリセット音として搭載されています。それぞれの音色は「プログラム」と呼ばれ、プログラムナンバーを選択することで音色を切り替えて使うことができます。

1. ノート・キーを触っていない状態でプログラム・キーに触れてください。

プログラム・キーに触れている間、プログラム/データ表示部分に現在選択されているプログラムナンバーが表示されます。プログラム・キーを離すと表示は元に戻ります。

※ ノート・キーに触れるとプログラム/データ表示部分には、現在選択されているプログラムナンバーではなく、そのノートの割り当てられているプログラムナンバーが表示されます。

2. HOLD, OCTボタンでプログラムナンバーを選択してください。

(本体裏側)　(本体表側)

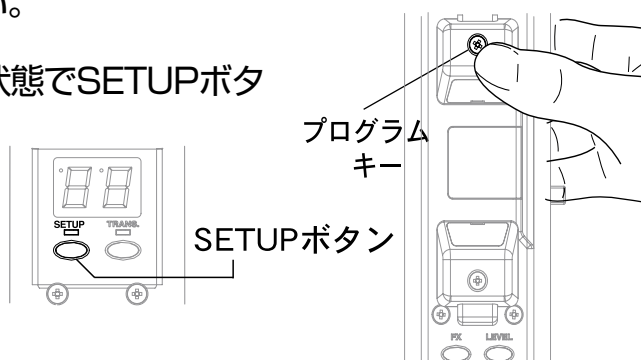
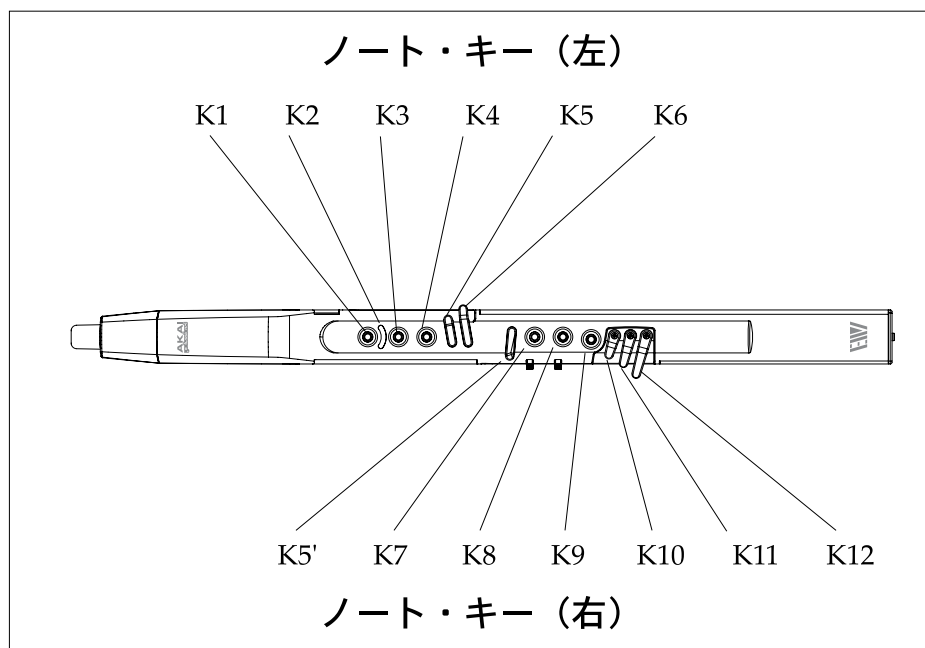
プログラムナンバーが表示されている状態で(プログラム・キーを触っているとき)HOLDボタン、OCTボタンを押すとプログラムナンバーを変更することができます。この時HOLDボタンは+(数値を一つ増やす)ボタン、OCTボタンは-(数値を一つ減らす)ボタンとして働きます。

3. プログラム・キーを離すと音色が切り替わります

■ノートにプログラムナンバーを割り当てる

HOLDボタンとOCTボタンで一つずつプログラムナンバーを選択する方法のほかに、ノートにプログラムナンバーを割り当てて、直接そのプログラムナンバーに切り替える方法があります。この方法を使えばライブの途中でもプログラムを瞬時に切り替えることができます。ノートは運指やオクターブに関係無く、同じノートであれば同じプログラムナンバーに切り替わります。

1. 「音色(プログラム)の選択(20ページ)」の要領でノートに割り当てるプログラムナンバーを選択して下さい。

2. プログラム･キーに触っている状態でSETUPボタンを押して下さい。

   プログラム･データ表示部分に選択したプログラムナンバーが表示されます。

3. ノート･キーで割り当てたいノートを押さえてください

4. マウスピースに息を吹き込んでください。

   選択していたプログラムが押さえていたノートに割り当てられます。

■ノートに割り当てたプログラムナンバーを呼び出す

「ノートにプログラムナンバーを割り当てる（21ページ）」で割り当てたプログラムナンバーを呼び出す方法を説明します。

1. プログラム・キーに触れた状態でノートキーを押さえます。

呼び出したいプログラムナンバーが割り当てられているノートを押さえてくださいプログラム／データ表示部分に割り当てられているプログラムナンバーが表示されます。運指やオクターブは関係ありません。

2. マウスピースに息を吹き込んでください。

プログラムナンバーが切り替わります。プログラム・キーを触っているときはマウスピースに息を吹き込んでも音は出ません。

音色(プログラム)の選択　 - 応用 -

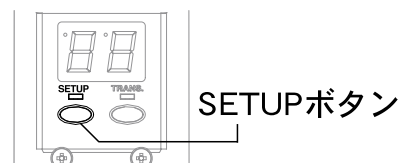
PROGRAMキーを使わないプログラム選択

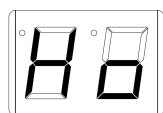
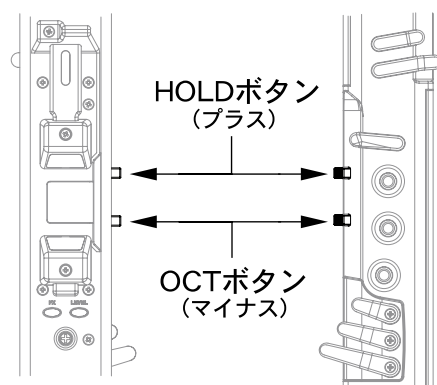
EWI4000sでは通常PROGRAMキーに触れることでプログラムの選択を行いますが、プログラムの変更が曲の途中に頻繁にあるような場合は、PROGRAMキーを使わずにHOLDボタンとOCTボタンだけで直接プログラムの選択が出来れば便利です。

ここではHOLDボタンとOCTボタンの機能を変更してPROGRAMキーを使わなくてもプログラムの選択を行えるようにする設定について説明します。

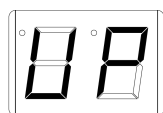
■HOLD ボタンをプログラム・アップ・ボタンとして使用する

※ この設定を行なうとホールド機能は使用できなくなります。

1. SETUP ボタンを押してください

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にAd と表示されます。

2. SETUP ボタンを押しながらHOLD ボタンを押して Ho を選択してください

SETUP ボタンを押しながらHOLD,OCT ボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。

（本体裏側）　（本体表側）

3. Ho を選択したら、SETUP ボタンを離してください。

4. HOLD,OCT ボタンで UP を選択してください

UP を選択するとHOLD ボタンはプログラム・アップ・ボタンとして働きます。

5. SETUP ボタンを押してください

プレイ・モードに戻ります。

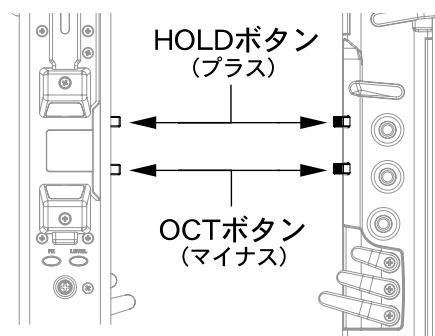
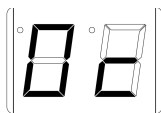
■OCT ボタンをプログラム・ダウン・ボタンとして使用する

※この設定を行なうとオクターブ機能は使用できなくなります。

1. SETUP ボタンを押してください

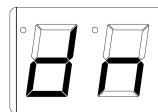
ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にAd と表示されます。

2. SETUP ボタンを押しながら HOLD ボタンを押して Oc を選択してください

SETUP ボタンを押しながらHOLD,OCT ボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。

（本体裏側）　（本体表側）

3. Oc を選択したら、SETUP ボタンを離してください。

4. HOLD,OCT ボタンで dn を選択してください

dn を選択するとOCT ボタンはプログラム・ダウン・ボタンとして働きます。

5. SETUP ボタンを押してください

プレイ・モードに戻ります。

以上の設定で、PROGRAM キーを使わなくてもHOLD ボタンとOCT ボタンだけでプログラムの選択を行なうことができます。

HOLD/OCT ボタンを押すと、選択されたプログラム・ナンバーをディスプレイに表示します。HOLD/OCT ボタンのどちらか一方だけをプログラム選択の機能に割り当てて使用することもできます。この時、もう一方のキーを併用することでプログラムのアップ/ダウンが可能です。HOLD ボタンをプログラム・アップ・ボタンとして使用して、OCT ボタンはオクターブ機能として使用している時でも、HOLD ボタンを押している間OCT ボタンはプログラム・ダウン・ボタンとして機能します。例えば、プログラム10 が選ばれている時、HOLD ボタンを押すとプログラム11がいったん選択されますが、HOLD ボタンを押したままの状態でOCT ボタンを一度押すと、プログラム10 が選択され、もう一度押すとプログラム9 が選択されます。

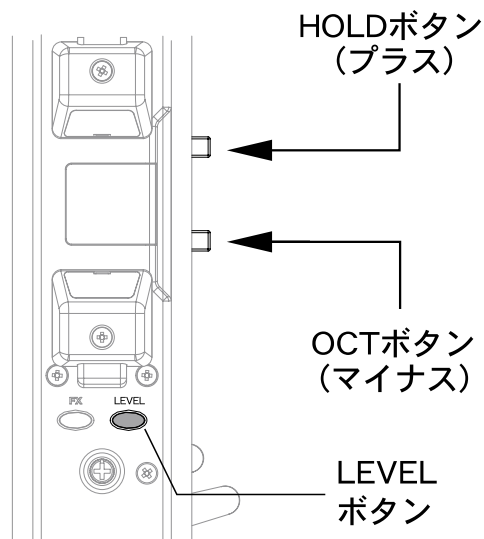
音量やエフェクトに関する調整

■EWI4000s全体の音量を調整する

1. LEVELボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に現在の設定値が表示されます。

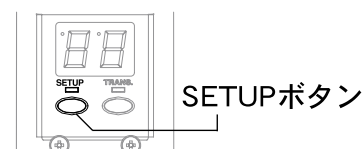
2. LEVELボタンを押したままHOLD，OCTボタンでレベルを調整(01-30)してください。

この時HOLDボタンは+(数値を一つ増やす)ボタン、OCTボタンは-(数値を一つ減らす)ボタンとして働きます。

■プログラムごとの音量を調整する

使うプログラム毎に音量を変えたいときに設定します。選択しているプログラムの音量だけを変更するので全体のレベルには影響しません。この設定はプログラム毎にメモリーされます。

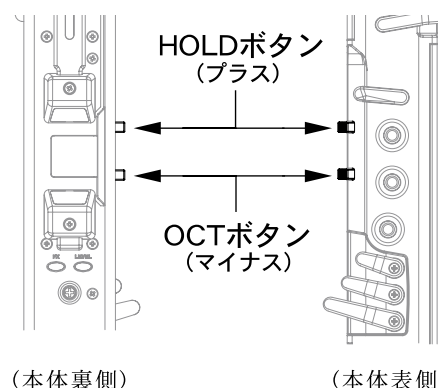
1. 音量を調整したいプログラムを選択して下さい。

2. LEVELボタンを押しながらSETUPボタンを押してください。

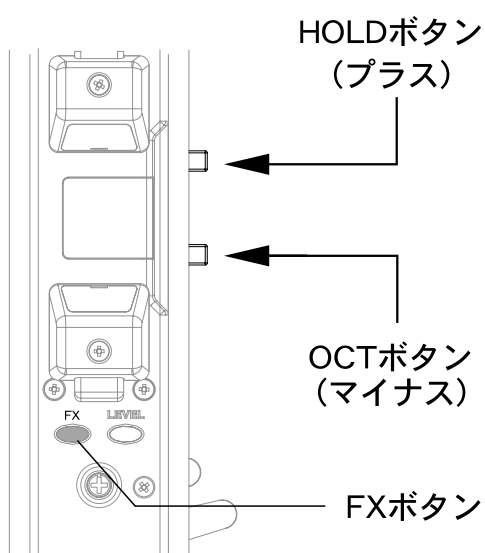
プログラム／データ表示部分に現在の設定値が表示されます。

3. HOLD, OCTボタンでレベルを調整してください。

この時HOLDボタンは+(数値を一つ増やす)ボタン、OCTボタンは-(数値を一つ減らす)ボタンとして働きます。

4. SETUPボタンを押してください。

通常のプレイモードに戻ります。

（本体裏側）　（本体表側）

■リバーブ音量の調整

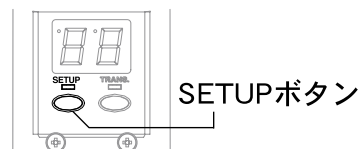
EWI4000s全体のリバーブエフェクト音量のみを調整します。リバーブエフェクトとは、電子的に付加した残響音のことです。

1. FXボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に現在の設定値が表示されます。

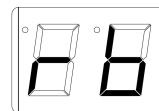
2. FXボタンを押したままHOLD, OCTボタンでレベルを調整してください。

この時HOLDボタンは+（数値を一つ増やす）ボタン、OCTボタンは-（数値を一つ減らす）ボタンとして働きます。

■プログラムごとのリバーブ音量を調整する

プログラムごとにリバーブ音量を変えたいときに設定します。選択しているプログラムのリバーブ音量だけを変更するので全体のリバーブレベルには影響しません。この設定はプログラムごとにメモリーされます。

1. リバーブ音量を調整したいプログラムを選択して下さい。

2. FXボタンを押しながらSETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に rb と表示され、ボタンを離すと現在の設定値が表示されます。

3. HOLD, OCTボタンでレベルを調整してくださいこの時HOLDボタンは+（数値を一つ増やす）ボタン、OCTボタンは-（数値を一つ減らす）ボタンとして働きます。

4. SETUPボタンを押してください。

通常のプレイモードに戻ります。

■プログラムごとのディレイ音量を調整する

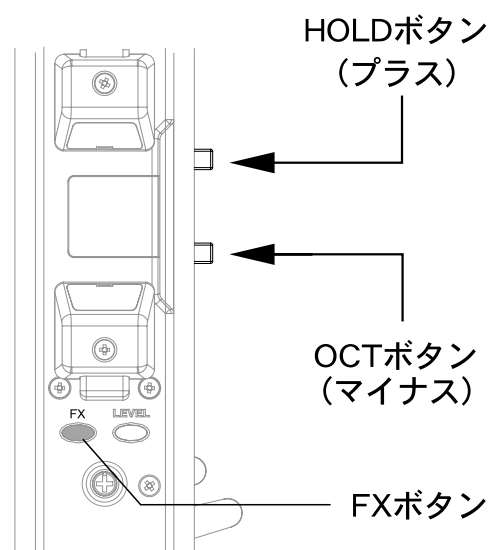
プログラムごとにディレイ音量を変えたいときに設定します。

ディレイとは、やまびこのように音を繰り返しながら減衰して行くエフェクトです。選択しているプログラムのディレイ音量だけを変更するのでリバーブレベルには影響しません。この設定はプログラム毎にメモリーされます。

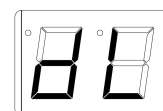
※ ディレイの調整はプログラムごとの設定のみになります。

1. ディレイ音量を調整したいプログラムを選択して下さい。

2. FXボタンを押しながらSETUPボタンを押してください。

   ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に rbと表示されます。

3. SETUPボタンは押したままの状態でFXボタンから手を離してHOLDボタンを押して、rbの替わりにdLを選択してください。

   dLを選択してボタンを離すと現在の設定値が表示されます。

   dL

4. HOLD, OCTボタンでレベルを調整してください。この時HOLDボタンは+（数値を一つ増やす）ボタン、OCTボタンは-(数値を一つ減らす）ボタンとして働きます。

5. SETUPボタンを押してください。

   通常のプレイモードに戻ります。

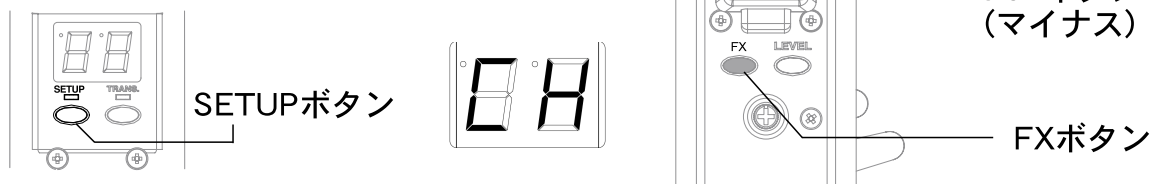
■プログラムごとにコーラス･エフェクトのオンオフを設定する

プログラムごとにコーラス･エフェクトのオンオフを設定します。コーラス･エフェクトは、原音に変調のかかった音をミックスして音に厚みを加えるエフェクトです。この設定はプログラムごとにメモリーされます。

> ※ コーラスの調整はプログラムごとの設定のみになります。

1. FX ボタンを押しながらSETUP ボタンを押してください

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にrb と表示されます。

2. SETUP ボタンを押したままの状態でFX ボタンから手を離し、HOLD ボタンを2 回押して、rbの替わりにCH を選択してください。

CH を選択してボタンを離すと現在の設定が表示されます。

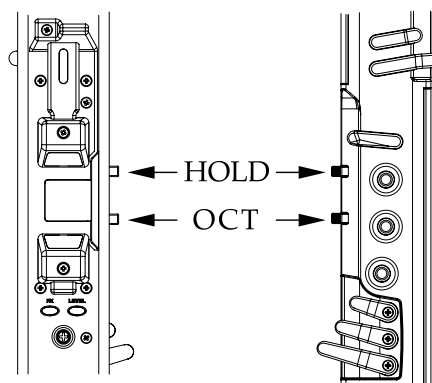
3. HOLD,OCT ボタンでオンかオフを選択してください。

オン(on)を選択するとエフェクトがかかり、オフ(OF)を選択するとエフェクトがかかりません。

4. SETUP ボタンを押してください。

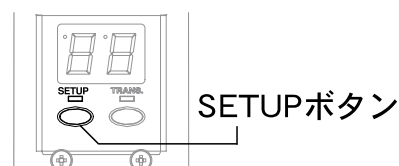
通常のプレイモードに戻ります。

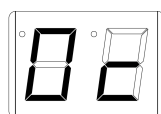
オクターブ機能 (OCTボタン)

オクターブ機能をOCTボタンに割り当てることで、演奏している音程に1オクターブ下の音程を追加することができます。曲の途中のサビの部分など音に厚みを付けたいときに効果的です。ここではOCTボタンにオクターブ機能を割り当てる方法について説明します。

(本体裏側)　(本体表側)

■オクターブ機能をOCTボタンに割り当てる

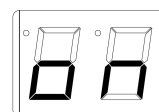
1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。

2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して Oc を選択してください。

SETUPボタンを押しながらHOLD, OCTボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。

3. Ocを選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に「OF」と表示されます。
これはオクターブ機能がオフに設定されていることを表しています。

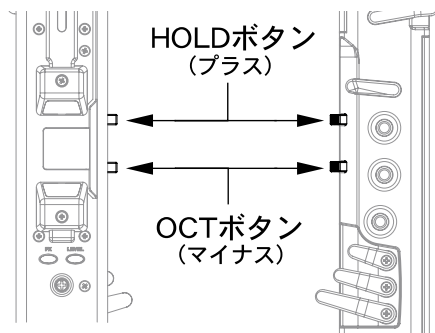
4. HOLD, OCTボタンで 「on」を選択してください。

onを選択するとオクターブ機能が使用できるようになります。

5. SETUPボタンを押してください。

プレイ・モードに戻ります。

OCTボタンにオクターブ機能が割り当てられている時、OCTボタンを押すとLEDが点灯してオクターブ機能がオンになり、実際に演奏している音程に1オクターブ下の音が追加されます。もう一度ボタンを押すとLEDが消灯してオフになります。

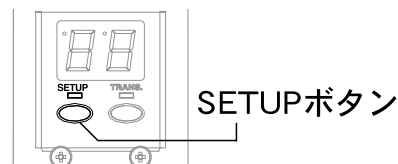
ホールド機能（HOLDボタン）

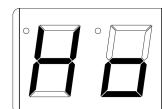
ホールド機能をHOLDボタンをに割り当てることで、2声の和音演奏が可能になります。

（本体裏側）　（本体表側）

例えば、息を切らずにドーミーソと演奏した場合、ホールド機能がオフのときは、「ドーミーソ」と一つずつのノートがそのまま演奏されますが、ホールド機能をオンにしているときは、「ドー（ドとミの和音）ー（ドとソの和音）」というように、最初の音を維持しながら次のノートが重なってなります。

ここではHOLDボタンにホールド機能を割り当てる方法について説明します。

■ホールド機能をHOLDボタンに割り当てる

1. SETUPボタンを押してくださいボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。

2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して Ho を選択してください。

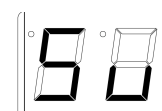
SETUPボタンを押しながらHOLD, OCTボタンを押すことで、セットアップ･モードで設定する項目を選択することができます。

3. Ho を選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に「OF」と表示されます。

これはホールド機能がオフに設定されていることを表しています。

4. HOLD, OCTボタンで So を選択してください。

Soを選択するとホールド機能が使用出来るようになります。

SoとOFの他にSuも選択可能ですが、So, Suのいずれを選んだ場合もホールド機能はオンになります。So, SuはEWI4000sをMIDIコントローラーとして使用する場合に必要な設定です。（44ページ参照）

5. SETUPボタンを押してください。

プレイ･モードに戻ります。

※ HOLD機能をHOLDボタンに割り当てるとEWI4000sの音量が少し小さくなります。これは２つの音が同時に鳴ることによる音の歪みを防ぐためで故障ではありません。

グライド機能 - 応用 -

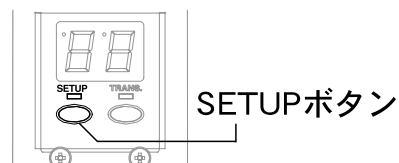
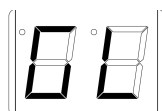
グライド機能を使用する際の音程変化の仕方を選択することができます。変化の仕方は以下の2 種類から選択できます。

Rate（レート）　最初の音程と次の音程が近いか離れているかに関わらず、同じ早さで音程が変わります。したがって音程が近い場合はすぐに音程が変わりますが、音程が離れている場合は、最初の音程から次の音程に変わるまで時間がかかります。

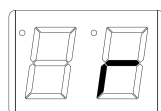
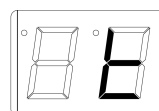
Time（タイム）　最初の音程と次の音程が近い場合も離れている場合も同じ時間で音程が変化します。したがって、音程が離れている場合は素早く、音程は近い場合はゆっくり音程が変わります。

- 設定方法 -

1. SETUP ボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にAd と表示されます。

2. SETUP ボタンを押しながらHOLD ボタンを押して GL を選択してください

SETUP ボタンを押しながらHOLD,OCT ボタンを押すことで、セットアップ･モードで設定する項目を選択することができます。

3. GL を選択したら、SETUP ボタンを離してください。

4. HOLD,OCT ボタンで r (Rate)またはt (Time)を選択してください。

(Rate)　(Time)

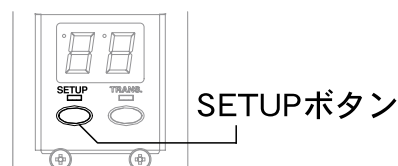
5. SETUP ボタンを押してください

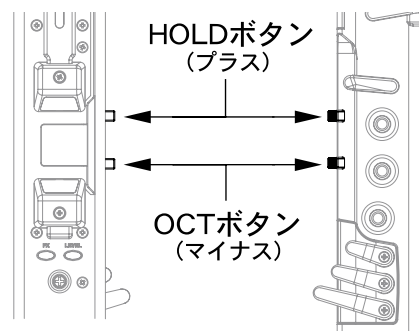
プレイ･モードに戻ります。

キーディレイ

EWI4000sを演奏していてノート･キーで音程を変えるときに、意図しない余分な音が鳴ってしまうことがある時に調整します。EWI4000sではタッチ･キーによる素早いプレイを実現するために、キーの反応速度を早めに設定してあります。しかし、運指のしかたによってはノートを切り替える際に一瞬意図しない音が鳴ってしまう場合があります。このようなときはキーディレイの設定でキーの反応速度を調整（0～15）することによりスムーズな演奏が行えます。

1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。

2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して dL を選択してください。

SETUPボタンを押しながらHOLD, OCTボタンを押すことで、セットアップ･モードで設定する項目を選択することができます。

（本体裏側）　（本体表側

3. dLを選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に現在設定されている値が表示されます。

4. HOLD, OCTボタンで設定してください。

この時HOLDボタンはプラス（数値を一つ増やす）ボタン、OCTボタンはマイナス（数値を一つ減らす）ボタンとして働きます。値を大きくするほどキーの反応が遅くなります。

※ *キー･ディレイの値を大きくしすぎると余分な音は発音しなくなりますが、反応が遅くなるため早いフレーズに対応できなくなります。EWIの演奏に慣れてきたら、出来るだけ値を小さくするといいかもしれません。*

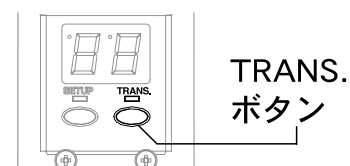
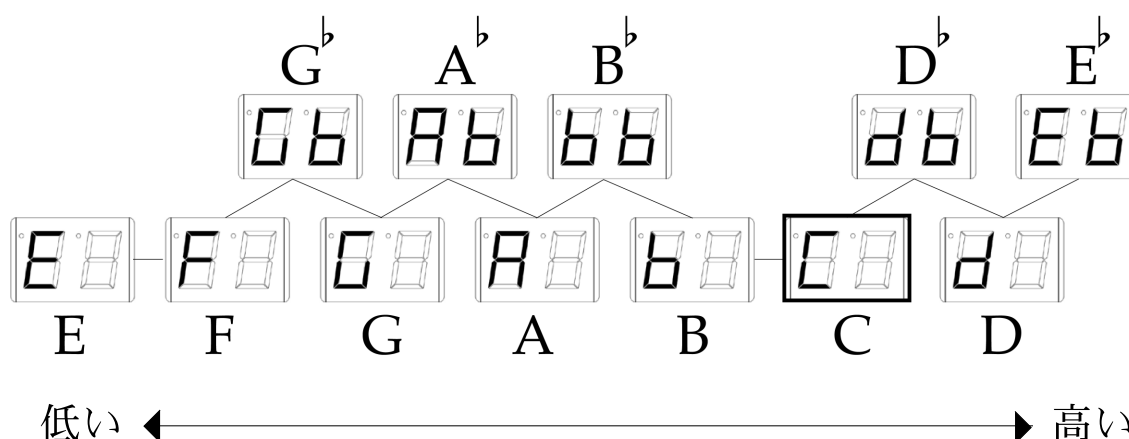
5. SETUPボタンを押してください。

プレイ･モードに戻ります。SETUP、HOLD, OCT以外のボタンをした場合は、変更したキーディレイの値は反映されず、元の設定に戻ります。

移調(トランスポーズ)の設定

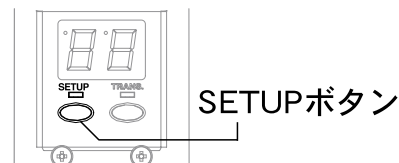
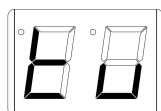
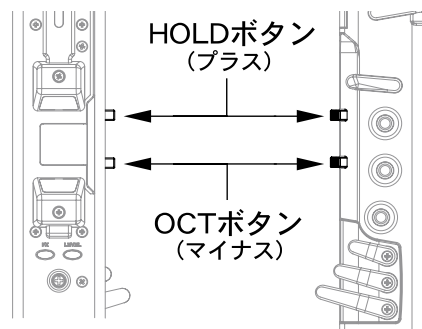
曲にあわせてEWI4000sの音程を移調することができます。トランスポーズ機能を使うと設定した通常の運指でCのノートを押さえたときに、設定したノートが鳴るようにトランスポーズされます。

TRANS.ボタンを押すとLEDが点灯してトランスポーズ機能がオンになり、もう一度押すとオフになります。

TRANS.ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にはトランスポーズの設定値が表示されます。この時、HOLD, OCTボタンで設定値を変更することができます。

設定値はそれぞれ音名を表しています。

※ *移調できる範囲は「C」を基調として、「E」～「C」～「Eb」です。*

チューニング（チューン）の設定

EWI4000s全体のチューン（音程）を設定（416Hz～465Hz）します。ほかの楽器と音程を合わせる際に設定します。

1. SETUPボタンを押してくださいボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にAd と表示されます。

2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して tu を選択してください。

SETUPボタンを押しながらHOLD, OCTボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。

3. tu を選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に「40」と表示されます。これは基音となる「A」の音程が440Hzに設定されていることを表しています。

4. HOLD, OCTボタンでチューンを設定してください。

この時HOLDボタンは+（数値を一つ増やす）ボタン、OCTボタンは–（数値を一つ減らす）ボタンとして働きます。416Hz～465Hzの間で設定できます。

5. SETUPボタンを押してください。

プレイ・モードに戻ります。

SETUP、HOLD, OCT以外のボタンをした場合は、変更したチューンは反映されず、元の設定に戻ります。

PCから音色をエディットする

EWI4000sの音色は本体でエディットすることはできませんが、専用のエディターソフト「Uniquest EWI4000（本製品付属のCD-ROMに収録）」を使用することで、PC側からEWI4000sの音色やエフェクトのパラメーターを変更することができます。変更した内容はEWI4000sに保持されます。PCとのデータのやり取りにはMIDIを使います。

エディターソフトは弊社ホームページからも今後ダウンロード可能予定です。PCとの接続方法などについては弊社ホームページのサポートページなどもあわせてご覧ください。

http://www.akai-pro.jp/

第4章 MIDIコントローラーとして使う

EWI4000sは音源とエフェクターを内蔵しているので、本体だけですぐに演奏を始めることができますが、外部にMIDI音源を用意することで、MIDIコントローラーとして使用することもできます。

■MIDIとは

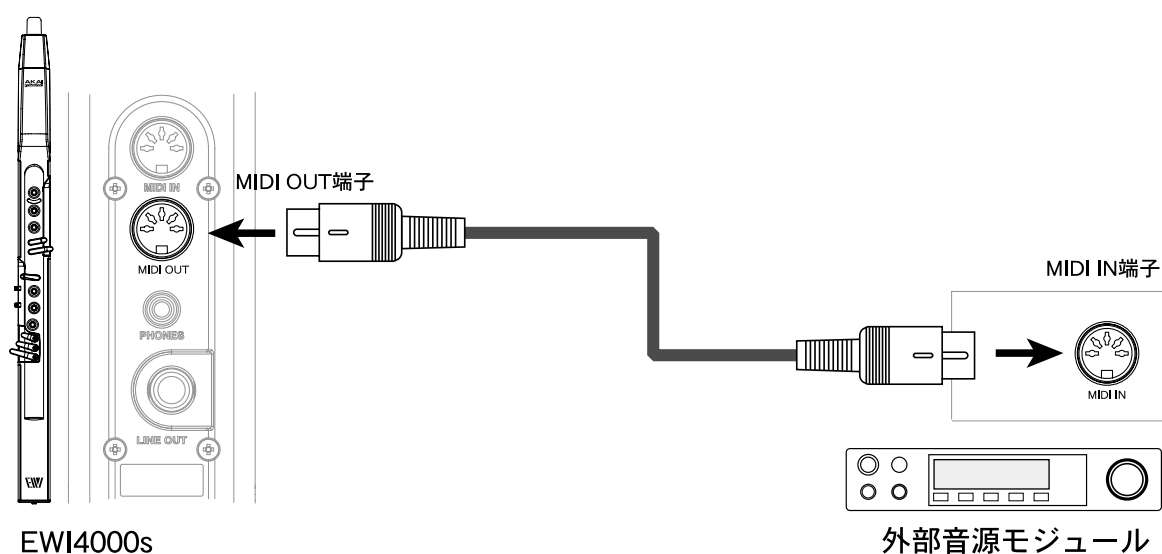
MIDIとは、メーカー間の壁を越えて、色々な電子楽器間で演奏情報をやり取りするために決められた規格です。
接続にはMIDIケーブルと呼ばれる専用のケーブルが使用されます。
EWI4000sのMIDI OUT端子とMIDI音源のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続することで、EWI4000sの演奏情報（MIDI信号）がMIDI音源に送られ、MIDI音源から音が出るようになります。ただし、MIDIで送られるのはあくまでも演奏情報（MIDI信号）であって、実際のEWI4000sの音そのものが送られているわけではありません。
またMIDIの規格には「MIDIチャンネル」というものがあります。このMIDIチャンネルはMIDIを扱う上で大変重要な概念です。
EWI4000sでMIDI音源を鳴らす場合も、EWI4000sのMIDIチャンネルと、MIDI音源のMIDIチャンネルを必ず同じチャンネルに設定しておかなければなりません。
たとえば、EWI4000sの送信チャンネルが「1」だとすると、音源の受信チャンネルも「1」でなければなりません。MIDIに関する詳しい情報はMID規格書や専門書などで学習してください。

※ EWI4000sは、ノートナンバーやベロシティ情報だけでなく、ポルタメントやサスティーンような、コントロールチェンジの情報も出力します。

■MIDIコントローラーとして使用する際に必要なもの

市販のMIDIケーブル、MIDI音源モジュール、またはMIDIシーケンサーなど。

■接続

EWI4000sのMIDI OUT端子と外部MIDI音源モジュールのMIDI IN端子を市販のMIDIケーブルで接続してください。

■MIDI音源モジュール側の設定

外部からのMIDI信号で音が鳴るように設定してください。受信MIDIチャンネルを「1」に設定してください。演奏したい音色を選んでください。

※ 外部音源モジュールの操作法についてはその音源の取扱説明書を参照してください。

■EWI4000s側の設定

EWI4000sは初期状態でMIDI情報を出力するように設定されていますので、MIDIケーブルを接続してEWI4000sを演奏すれば、MIDI音源モジュールから音が出るはずです。

・ 息の強弱の情報はMIDIコントロールチェンジの07-Volume情報として出力されます。音源側がこれに対応していれば、息の強弱で音量をコントロールすることができます。音源側の設定によっては音量だけでなく音色などをコントロールすることができます。例えばコントロールチェンジ-07でフィルターのカットオフ周波数が変わるように設定すれば、息の強弱で音色がコントロールできるようになります。音源側の設定方法はその音源の取扱説明書を参照してください。

・ ベンド･プレートの情報はMIDIピッチベンド情報として出力されます。音源側がこれに対応していれば、EWI4000sでピッチベンドをコントロールできます。ビブラートの情報もピッチベンド情報とともに送られますので、音源側が対応していればビブラートをかけることができます。

・ グライドの情報はMIDIコントロールチェンジの65-Portamento(on/off)と05-Portamento timeを使って送信されます。音源側がこれに対応していれば、EWI4000s側からグライド(ポルタメント)をコントロールすることができます。

■プログラムチェンジ

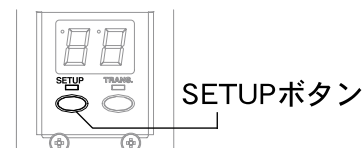
MIDIプログラムチェンジ情報を使って音源側の音色をEWI4000sから変更することができます。操作方法については20ページ「音色の選択」で内部音源の音色を変更する場合と同様です。EWI4000sでプログラムを変更すると該当するMIDIプログラムチェンジ情報が出力されます。

MIDIコントローラーとして使う (応用編)

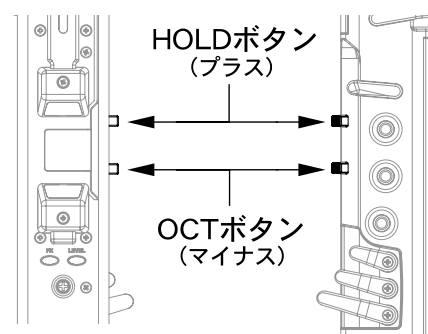
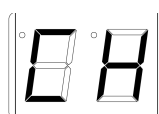
■MIDIチャンネルの変更

EWI4000sから送信するMIDIチャンネルを設定します。

1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にAdと表示されます。

2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押してCHを選択してください。

（本体裏側）　（本体表側）

SETUPボタンを押しながらHOLD, OCTボタンを押すことで、セットアップ･モードで設定する項目を選択することができます。

3. CHを選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に現在のMIDIチャンネルの設定値が表示されます。

4. HOLD, OCTボタンで設定してください。

この時HOLDボタンは+（数値を一つ増やす）ボタン、OCTボタンは-（数値を一つ減らす）ボタンとして働きます。

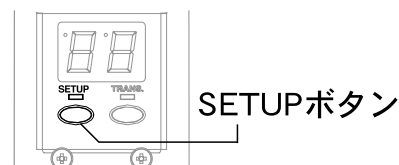
5. SETUPボタンを押してください。

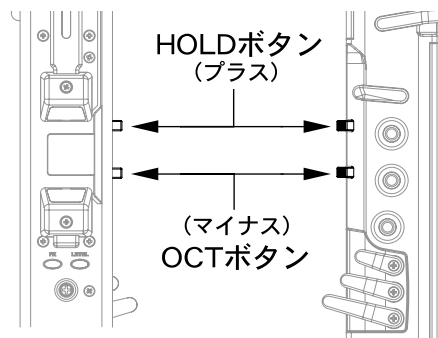
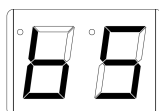
プレイ･モードに戻ります。SETUP、HOLD, OCT以外のボタンをした場合は、変更したMIDIチャンネルの値は反映されず、元の設定に戻ります。

■ブレス・センサー出力の変更

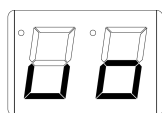
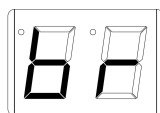
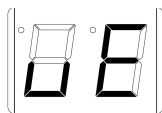
ブレス・センサーの情報を出力するMIDIコントロールチェンジ情報を設定します。複数のイベントを同時に出力することも可能です。

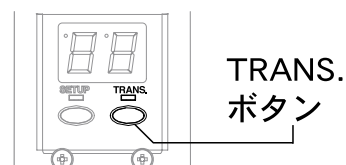
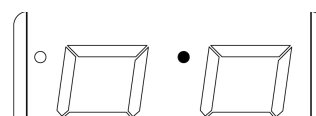
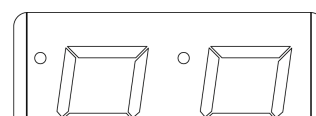
1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。

2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して bS を選択してください。

SETUPボタンを押しながらHOLD, OCTボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。

（本体裏側）　（本体表側）

3. bS を選択したら、SETUPボタンを離してください。

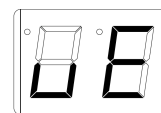
プログラム／データ表示部分に vo と表示されます。設定できるMIDIイベントは以下のようになります。

表示	イベント
vo	Volume (07)
EP	Expression (11)
AF	Aftertouch
br	Breath control (02)
vE	Velocity data

4. HOLD, OCTボタンでMIDIイベントを選択してTRANS.ボタンを押してください。

TRANS.ボタンを押すことでそのイベントを出力するかどうかを選択することができます。出力するイベントにはドットのLEDが点灯します。

複数のイベントを同時に出力することもできます。vEを選択するとブレスの強弱に応じてMIDIベロシティ値が送信されます。

5. 設定が終了したらSETUPボタンを押してください。

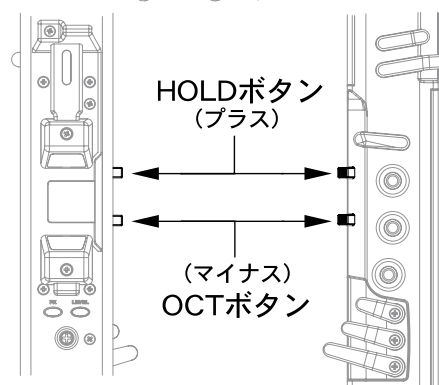
プレイ・モードに戻ります。SETUP, TRANS., HOLD, OCT以外のボタンをした場合は、変更した設定は反映されず、元の設定に戻ります。

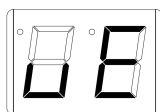
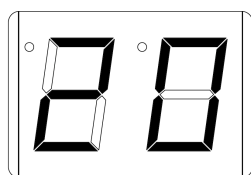
■ベロシティ値の設定

ブレス･センサーの出力設定でvE(ベロシティ)を選択している場合、息の強弱に応じたベロシティ値が出力されますが、vEを選択していない場合は固定のベロシティ値が送信されます。固定で出力されるベロシティ値を変更することができます。

1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。

2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して vE を選択してください。

SETUPボタンを押しながらHOLD, OCTボタンを押すことで、セットアップ･モードで設定する項目を選択することができます。

(本体裏側)　(本体表側)

3. vE を選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に 現在の設定値が表示されます。設定範囲は1～127で、ディスプレイには設定値の下 2 桁を表示しています。ディスプレイ内のドットは「100」を表しており、例えば、「20」にドットが点灯している場合、設定値は「120」となります。

「20」ドットが点灯していない状態

「120」ドットが点灯している状態

4. HOLD, OCTボタンで値を設定してください。

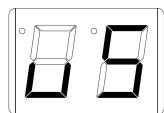
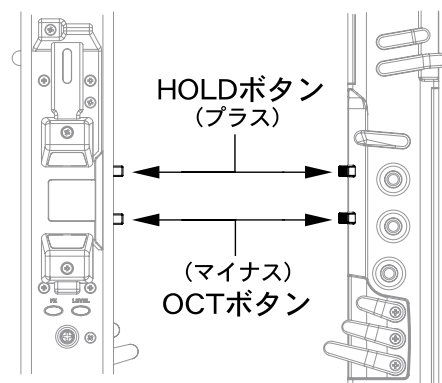
5. 設定が終了したらSETUPボタンを押してくださいプレイ･モードに戻ります。

■ビブラート･センサー出力の変更

ビブラート･センサーの情報は通常ピッチベンド情報とミックスされるので、ビブラート･センサーを噛むことで音程に変化を付けてビブラート効果を得ます。ビブラート･センサーの出力をブレス･センサーにミックスしてやることで、音色や音量にビブラート効果をかけることができます。

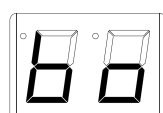
1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。

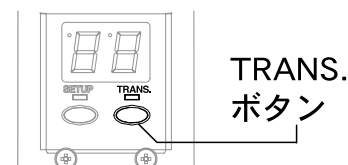
2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して uS を選択してください。

SETUPボタンを押しながらHOLD, OCTボタンを押すことで、セットアップ･モードで設定する項目を選択することができます。

（本体裏側）　（本体表側）

3. uS を選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に Pb と表示されます。

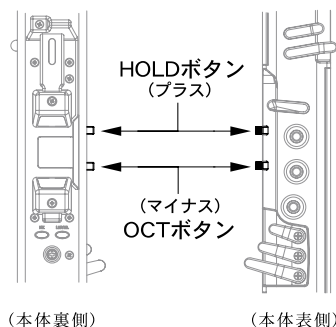
ピッチベンド情報にミックスします。

ブレスセンサー情報にミックスします。

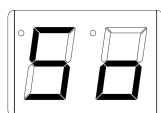
4. HOLD, OCTボタンで選択してTRANS.ボタンを押してください。

TRANS.ボタンを押すことでそのイベントを出力するかどうかを選択することができます。出力するイベントにはドットのLEDが点灯します。

5. 設定が終了したらSETUPボタンを押してください。

プレイ･モードに戻ります。SETUP, TRANS., HOLD, OCT以外のボタンをした場合は、変更した設定は反映されず、元の設定に戻ります。

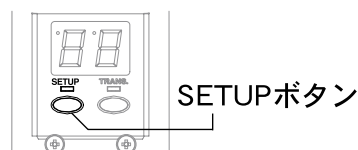
■OCTボタンの機能（MIDI接続時）

MIDIコントローラーとして使用しているときもオクターブ機能が使用可能です。オクターブ機能がオンのとき、演奏しているノートの1オクターブ下のノート情報が同時に出力されます。オクターブ機能は初期設定ではOCTボタンに割り当てられていません。オクターブ機能を使用するには最初にOCTボタンにオクターブ機能を割り当てる必要があります。オクターブ機能の割り当て方は内部音源を使って演奏する場合と同様です。割り当て方法については29ページ「オクターブ機能をOCTボタンに割り当てる」をご覧下さい。

■HOLDボタンの機能（MIDI接続時）

MIDIコントローラーとして使用しているときもホールド機能が使用可能ですが、内蔵音源を使用しているときと若干仕様が異なります。MIDI使用時のホールド機能には以下の2種類があり、セットアップ･モードで選択することができます。

MIDIコントロールチェンジ - 66のソステヌート情報を使用します。レガートで演奏した場合に最初のノート情報の後にソステヌート情報を出力するので、最初のノートだけがホールドされて以降のノートはホールドされません。息を止めるとソステヌートもオフになります。

MIDIコントロールチェンジ - 64のサスティーン情報を使用します。レガートで演奏した場合にすべてのノートがサスティーンされます。息を止めるとオフになります。

■ホールド機能の設定

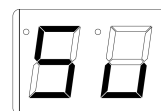
ホールド機能を使用するとき、MIDIコントロールチェンジ-66のソステヌート情報を使用するか、MIDIコントロールチェンジ-64のホールド情報を使用するかを選択します。

1. SETUPボタンを押してください。

   ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。

2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して Ho を選択してください。

3. Ho を選択したら、SETUPボタンを離してください。

   プログラム／データ表示部分に現在の設定が表示されます。

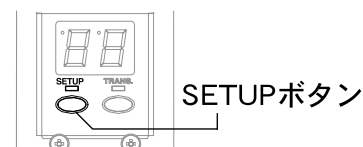
4. HOLD, OCTボタンで So または Su を選択してください。

OFを選択するとホールド機能は使用できなくなります。

5. SETUPボタンを押してくださいプレイ・モードに戻ります。

■MIDI ポルタメントON/OFF 情報の出力

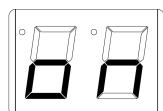
通常、グライドセンサーに触れるとMIDI コントロールチェンジ情報の65番、ポルタメント・オン・メッセージが出力され、センサーに触れている量に応じてポルタメント・タイム情報が出力されます。しかし、接続する音源よってはポルタメント・オン情報を受信することで音源の状態が変わって、その後ポルタメント情報を正しく受信できなくなるものがあります。このような場合は、グライドセンサーを触ってもポルタメントの情報が出ないように設定することで問題を回避することができます。

1. SETUP ボタンを押してください

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にAd と表示されます。

2. SETUP ボタンを押しながらHOLD ボタンを押して Po を選択してください。

SETUP ボタンを押しながらHOLD,OCT ボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。

3. Po を選択したら、SETUP ボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分にon と表示されます。

ポルタメント・オン情報を出力します。

ポルタメント・オン情報を出力しません。

4. 設定が終了したらSETUP ボタンを押してください

プレイ・モードに戻ります。

内部に保存している設定をリセットする

LEVEL, FX, SETUP TRANSボタンを押しながら電源を入れると、内部に保存している設定を工場出荷時の状態に戻すことが出来ます。

本体が保持しているのは以下の設定項目です。

dL ： Key delay:02

CH ： Midi channel:01

tu ： Tune:40

bS ： Breath sensor:Only expression is set.

vS ： Vibrato sensor:Only expression is set.

vE ： Velocity:120

Po ： Portamento:on

Oc ： Octave key:OF

Ho ： Hold key:OF

GL ： Glide:r

Level master:30

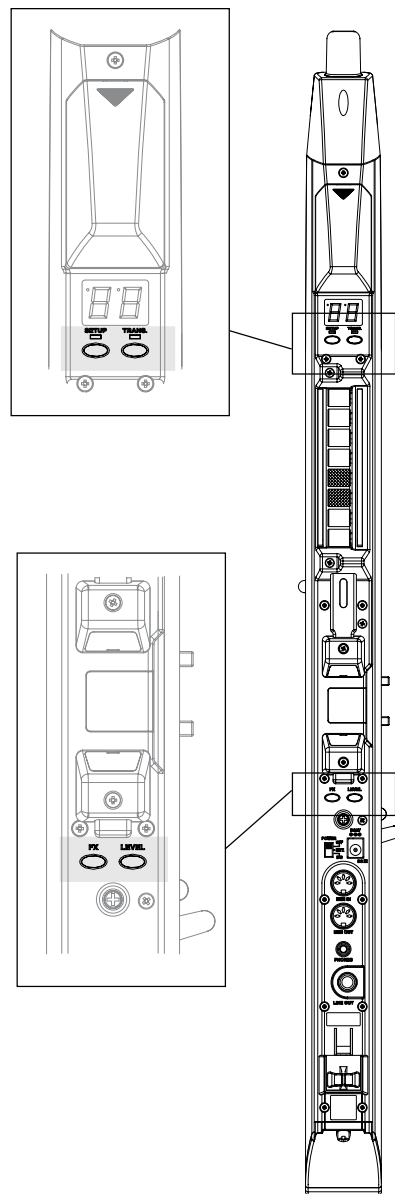
Level preset:30

Reverb master:21

- Effect preset -

CH ： Chorus:OF

dL ： Delay:OF

rb ： Reverb:21

仕様

■ EWI4000s 主な仕様

形式　エレクトリック･ウィンド･インストルメント

運指　サキソフォン準拠､及びEWI方式

センサー　ノートキー：タッチセンス式

マウスピース：　ブレス：エアプレッシャーレベル方式

バイト：プレッシャーレベル方式

ベンド･アップ／ダウン：タッチセンス式

グライド･プレート：　タッチセンス式

オクターブ･ローラー:　タッチセンス式

プログラムキー　：　タッチセンス式

ボタン　LEVELボタン､FXボタン､SETUPボタン､TRANSPOSEボタン､OCTボタン､HOLDボタン

感度調整　ブレス･センス､ブレス･アジャスト､ベンド･ワイズ､ベンド･アジャスト

グライド･タイム､グライド･アジャスト､ビブラート･アジャスト

端子　ラインアウト x 1（1/4フォンジャック）

ヘッドホンアウト x 1（デュアル･モノ､ステレオ･ミニ･ジャック 最小負荷インピーダンス32Ω）

"MIDI IN, MIDI OUT　各1（5ピンDIN）"

DC IN x 1（別売り「MP-9」を使用）

他　脱着式ケーブル･クラッチ

電源　単三アルカリ(または充電式）電池 4 本

（電池使用時: 連続動作 約8時間 ※ヘッドフォン使用時は除く）

または別売りACアダプター（MP-9）

外形寸法　670.5mm（長さ）x 61mm（幅）x 69.0mm（厚み）

重量　874g（電池別）

付属品　使用説明書､スリンガー､単三乾電池 x 4本､クリーニングクロス､マウスピース･カバー

CD-ROM（EWI4000s 専用音色エディットソフト「Uniquest EWI4000s」を収録）

■ 音源部

音源方式　アナログモデリング･シンセサイザー

ボイス　2（オクターブ/ホールド機能使用時）

制御音域　8オクターブ

音源　2オシレーター､2フィルター　波形：ノコギリ波､三角波､パルス波（幅可変）

ノイズ･ジェネレーター､フォルマントフィルター

エフェクト　リバーブ､ディレイ､コーラス

音色数　100

ディスプレイ　7セグメントLED x 2桁

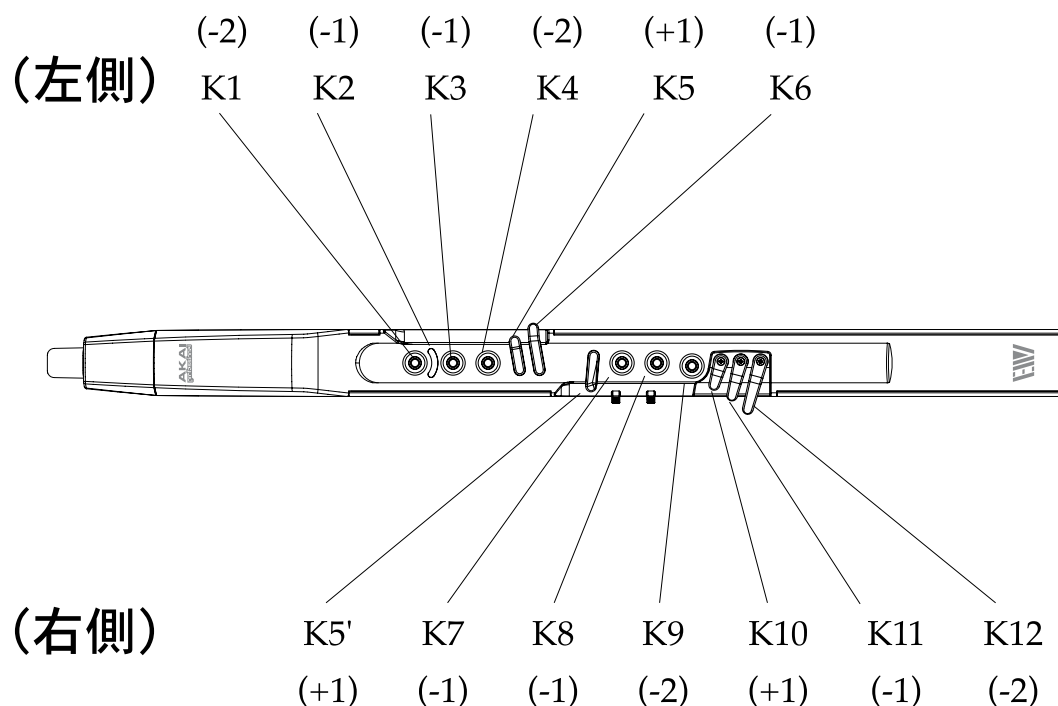
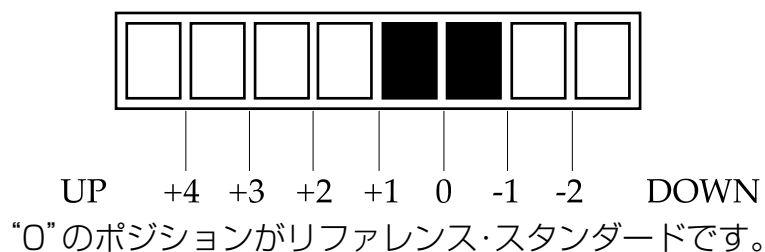
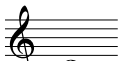
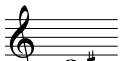
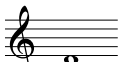
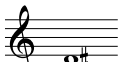
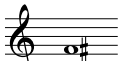
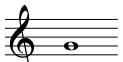
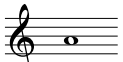
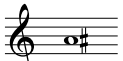
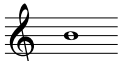
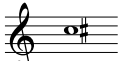
機能　トランスポーズ､チューン､ノートホールド､オクターブ､プログラムチェンジ､キーディレイ

※ 規格や外観などは改良のため､予告なく変更することがあります。

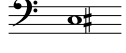
運指表

■ノート･キー

■オクターブ･シフト･ローラー

“0”のポジションがリファレンス･スタンダードです。

EWI4000sにおける｢キー操作｣と｢オクターブ･シフト･ローラーのタッチポジション｣によりEWI4000s本体のMIDI OUT端子から出力するMIDIノートナンバー範囲を書きに示します。

キー操作を加えるとEWI4000sは最低音[A#:22]から最高音[D#:111]という広い音域でMIDI対応の楽器を演奏できます。

オクターブ・シフトローラーの タッチ・ポジション	MIDIノート・ナンバーの 範囲
－2	24 – 36
－1	36 – 48
0	48 – 60
＋1	60 – 72
＋2	72 – 84
＋3	86 – 96
＋4	96 – 108

※　*MIDIノートナンバー[60]が｢中央のド(C)｣に該当します。*

黒く塗りつぶしてあるKEYをタッチして下さい。

NOTE	NOTE KEYs (LEFT)						NOTE KEYs (RIGHT)							OCTAVE SHIFT ROLLERs
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K5'	K7	K8	K9	K10	K11	K12	
A♯	●	)	●	●	▯	▮	▯	●	●	●	▯	▮	▮	
B	●	)	●	●	▯	▮	▯	●	●	●	▯	▯	▮	
C	●	)	●	●	▯	▯	▯	●	●	●	▯	▯	▮	
C♯	●	)	●	●	▮	▯	▯	●	●	●	▯	▯	▮	
D	●	)	●	●	▯	▯	▯	●	●	●	▯	▯	▯	
D♯	●	)	●	●	▯	▯	▯	●	●	●	▮	▯	▯	
E	●	)	●	●	▯	▯	▯	●	●	○	▯	▯	▯	
F	●	)	●	●	▯	▯	▯	●	○	○	▯	▯	▯	
F♯	●	)	●	●	▯	▯	▯	○	●	○	▯	▯	▯	UP +1 DOWN
G	●	)	●	●	▯	▯	▯	○	○	○	▯	▯	▯	
G♯	●	)	●	●	▯	▯	▮	○	○	○	▯	▯	▯	
A	●	)	●	○	▯	▯	▯	○	○	○	▯	▯	▯	
A♯	●	)	●	○	▯	▯	▮	○	○	○	▯	▯	▯	
B	●	)	○	○	▯	▯	▯	○	○	○	▯	▯	▯	
C	○	)	●	○	▯	▯	▯	○	○	○	▯	▯	▯	
C♯	○	)	○	○	▯	▯	▯	○	○	○	▯	▯	▯	
D	○	)	○	○	▮	▯	▯	○	○	○	▯	▯	▯	

替指例

NOTE	NOTE KEYs (LEFT)						NOTE KEYs (RIGHT)							OCTAVE SHIFT ROLLERs
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K5'	K7	K8	K9	K10	K11	K12	
C♯	●	○	●	●	○	○	○	●	●	●	○	●	○	UP +2 DOWN
C	●	○	●	●	○	○	○	●	●	●	○	○	●	
B	●	○	●	●	○	○	○	●	●	●	○	●	●	
B♭	●	○	●	●	○	●	○	●	●	●	○	●	●	
B♭	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	UP +1 DOWN
C	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	UP 0 DOWN
C♯	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

これはほんの一例にすぎません。

その他の替指については、サキソフォンなどの教則本を参考に各自研究してください。

AKAI professional M.I. Corp.
Model : EWI4000s

Date : October, 2005
Version : 1.0

MIDI Implementation Chart

Function	* * *	Transmited	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default	1 - 16	1 - 16	Memorized
	Changed	1 - 16	1 - 16	
Mode	Default	3	3	2 notes polyphony
	Messages	X	O (All note off)	
	Altered	******	******	
Note Number		22 - 111	22 - 111	
	True Voice	(-8 ~ +3 transposed) (*1)	12 - 127	
Velocity	Note on	O: 9n, v=1 - 127 (*2)	O: 9n, v=1 - 127	
	Note off	O: 8n, v=64	O: 8n or 9n, v=0	
After Touch	Key's	X	X	
	Ch's	O	O	
Pitch Bender		O	O	
Control Change	2	O	O	Breath Controler
	5	O	O	Portament Time
	7	O	O	Volume
	11	O	O	Expression
	64	O	O	Sustain
	65	O	O	Portamento
	66	O	O	Sostenuto
Program Change		O (0 - 99)	O (0 - 99)	
	True #	******	******	
System Exclusive		O	O	
System Common	: Song Position	X	X	
	: Song Select	X	X	
	: Tune	X	X	
System Real Time	: Clock	X	X	
	: Commands	X	X	
Aux Messages	: Local on/off	X	X	
	: All Note Off	O	O	
	: Active Sense	X	X	
	: Reset	X	X	

Notes: (*1): Varied within a range of -8 ~ +3 depending on the transposition settings.
(*2): A fixed value within a range of 1 ~ 127, or variable values by breath control.

Mode 1 : OMNI ON, POLY   Mode 2 : OMNI ON, MONO
Mode 3 : OMNI OFF, POLY   Mode 4 : OMNI OFF, MONO

O : YES
X : NO

故障かな？と思ったら...

●音が出ない

・ミキサーやヘッドホンが正しく接続されているか確認してください。
（8ページ、「接続のしかた」）

・電源が入っているか、電池が切れていないか確認してください。
（7ページ、「電池の入れ方」「ACアダプター」）

・LEVELの設定がゼロになっていないか確認してください。
（25ページ、「音量の調整」）

・ブレスの感度調整は正しいか確認してください。
（14ページ、「感度調整」）

●音程が変わらない

タッチセンス感度調整を確認してください。
（18ページ、「タッチセンス感度調整」）

●何もしないのに音が出たままになる

・ブレスの感度調整は正しいか確認してください。
（14ページ、「感度調整」）

●他の楽器と音程が合わない

・チューンの設定を確認してください。
（34ページ、「チューンの設定」）

・ベンド・センサーの感度調整を確認してください。
（16ページ、「ベンド・センサーの調整」）

●強弱がつかない

・ブレスの感度調整は正しいか確認してください。
（15ページ、「感度調整」）

●音程がすぐに変わらない

・グライド・センサーの調整が正しいか確認してください。
（17ページ、「グライド・センサーの調整」）